別記様式第2号（その1の1）

（用紙　日本産業規格A4縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画									
事　項		記　入　欄							備　考
計画の区分		学部の設置							
フリガナ 設置者		ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ﾆﾎﾝｲﾘｮｳﾀﾞｲｶﾞｸ 学校法人　日本医療大学							
フリガナ 大学の名称		ﾆﾎﾝｲﾘｮｳﾀﾞｲｶﾞｸ 日本医療大学　(Japan Healthcare University)							
大学本部の位置		北海道札幌市豊平区月寒東３条１１丁目１番５０号							
大学の目的		日本医療大学は、教育基本法および学校教育法の定めるところにより、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開できる保健医療福祉分野の人材の育成を目的とする。							
新設学部等の目的		総合福祉学部では、これからの社会で総合的に行われる保健・医療・福祉の人材を育成する。人間に対する尊厳という価値のもとで、人々の「社会生活」の視点から支援できる人材、地域共生社会の構築に向けて、個人が生活していく上での課題を明らかにし、支援計画を立案して課題の解決を図っていく能力を有した人材、地域に存在する生活課題を明らかにし、支援計画を立案して課題の解決を図っていく能力を有した人材を育成することを目的とする。そのために生活を支援するという共通性を持った「介護福祉マネジメント学科」と「ソーシャルワーク学科」を設置することとした。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
		年	人	年次 人	人		年　月 第　年次		
	総合福祉学部 (Faculty of Comprehensive Social Work)								
	介護福祉マネジメント学科 (Department of Care Work and Management)	4	40	－	160	学士 (福祉経営学) (Bachelor of Care Work and Management)	令和4年4月 第1年次	北海道札幌市清田区真栄434番地1	
	ソーシャルワーク学科 (Department of Social Work)	4	80	－	320	学士 (社会福祉学) (Bachelor of Social Work)	令和4年4月 第1年次	北海道札幌市清田区真栄434番地1	
	計		120	－	480				
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）		学科の設置 保健医療学部臨床工学科　(60)(令和3年3月認可申請)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
		講義	演習	実習	計				
	総合福祉学部 介護福祉マネジメント学科	93科目	31科目	4科目	128科目		124単位		
	総合福祉学部 ソーシャルワーク学科	79科目	25科目	2科目	106科目		124単位		

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
			人	人	人	人	人	人	人	
	新設分	総合福祉学部 介護福祉マネジメント学科	6 (5)	3 (3)	1 (1)	4 (3)	14 (12)	0 (0)	37 (14)	令和3年3月 認可申請
		総合福祉学部 ソーシャルワーク学科	4 (2)	4 (2)	2 (2)	2 (1)	12 (7)	0 (0)	36 (19)	
		保健医療学部 臨床工学科	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	34 (15)	
		計	15 (12)	9 (7)	5 (5)	6 (4)	35 (28)	0 (0)	－ (－)	
	既設分	保健医療学部 看護学科	16 (16)	5 (5)	12 (12)	7 (7)	40 (40)	2 (2)	52 (52)	
		保健医療学部 リハビリテーション学科	8 (8)	6 (6)	4 (4)	4 (4)	22 (22)	0 (0)	70 (70)	
		保健医療学部 診療放射線学科	5 (5)	3 (3)	3 (3)	1 (1)	12 (12)	1 (1)	55 (55)	
		保健医療学部 臨床検査学科	5 (5)	0 (0)	5 (5)	2 (2)	12 (12)	0 (0)	36 (26)	
		計	34 (34)	14 (14)	24 (24)	14 (14)	86 (86)	3 (3)	－ (－)	
	合計		49 (46)	23 (21)	29 (29)	20 (18)	121 (114)	3 (3)	－ (－)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	大学全体
		人	人	人	
	事務職員	40 (40)	12 (12)	52 (52)	
	技術職員	－ (－)	－ (－)	－ (－)	
	図書館専門職員	2 (2)	0 (0)	2 (2)	
	その他の職員	3 (3)	0 (0)	3 (3)	
	計	45 (45)	12 (12)	57 (57)	

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体
	校舎敷地	65,249 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	65,249 ㎡	■校舎敷地：借用面積35,418㎡、期間30年 ■運動場用地：借用面積9,790㎡、期間20年
	運動場用地	9,790 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	9,790 ㎡	
	小計	75,039 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	75,039 ㎡	
	その他	0 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	
	合計	75,039 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	75,039 ㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体
	50,089 ㎡ (50,089 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	50,089 ㎡ (50,089 ㎡)	■借用面積 32,273㎡、 期間30年

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体
	60 室	73 室	39 室	2 室 (補助職員 0 人)	情報処理学習施設と共用 (補助職員 0 人)	

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	総合福祉学部 介護福祉マネジメント学科	12(うち合同研究室2) 室	
	総合福祉学部 ソーシャルワーク学科	12(うち合同研究室2) 室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	日本医療大学 総合福祉学部	4,213〔438〕 (4,213〔438〕)	18〔4〕 (18〔4〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	141 (141)	0 (0)	0 (0)	
	計	4,213〔438〕 (4,213〔438〕)	18〔4〕 (18〔4〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	141 (141)	0 (0)	0 (0)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	大学全体
	2,204㎡	423席	117,140冊	
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		
	2,146㎡	テニスコート		

経費の見積及び維持方法の概要

経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
	教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	－	－
	共同研究費等		3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	－	－
	図書購入費	23,798千円	0千円	0千円	0千円	0千円	－	－
	設備購入費	45,016千円	0千円	0千円	0千円	0千円	－	－

学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
	1,300千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－	－

学生納付金以外の維持方法の概要	寄附金、私立大学等経常費補助金　等

既設大学等の状況

大学の名称	日本医療大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
保健医療学部	年	人	年次人	人		倍			
看護学科	4	150	－	430	学士 看護学	1.09	平成26年度	北海道札幌市豊平区月寒東3条11丁目1番50号	令和元年度入学定員増(20人) 令和3年度入学定員増(50人)
リハビリテーション学科	4	120	－	440	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学	0.92	平成27年度		令和元年度入学定員増(40人)
診療放射線学科	4	100	－	250	診療放射線学	1.21	平成28年度		令和3年度入学定員増(50人)
臨床検査学科	4	60	－	60	臨床検査学	1.20	令和3年度		

附属施設の概要	該当なし

学校法人日本医療大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和３年度	入学定員	編入学定員	収容定員
日本医療大学			
保健医療学部			
看護学科	150	－	600
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学科	120	－	480
理学療法学専攻	80	－	320
作業療法学専攻	40	－	160
診療放射線学科	100	－	400
臨床検査学科	60	－	240
計	430	－	1,720

令和４年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
日本医療大学				
保健医療学部				
看護学科	150	－	600	
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学科	120	－	480	
理学療法学専攻	80	－	320	
作業療法学専攻	40	－	160	
診療放射線学科	100	－	400	
臨床検査学科	60	－	240	
臨床工学科	60	－	240	学部の学科の設置（認可申請）
総合福祉学部				
介護福祉ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	40	－	160	学部の設置（認可申請）
ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ学科	80	－	320	学部の設置（認可申請）
計	610	－	2,440	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（総合福祉学部介護福祉マネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
基礎教育科目	人間と文化	人間関係とコミュニケーションⅠ	1前		2		○				1					
		人間関係とコミュニケーションⅡ	1後		2		○				1					
		人間の尊厳と自立	2前		2		○								兼1	
		倫理学	1前		2		○								兼1	
		文化人類学	2後		2		○			1						
		教育学	2前		2		○								兼1	
		文学	2後		1		○								兼1	
		北海道史	1後		1		○			1						
		心理学と心理的支援	1前		2		○								兼1	
		発達心理学	1後		2		○								兼1	
		ボランティア活動	1後		1		○								兼1	
		（小計11科目）	－	0	19	0	－			1	1	0	0	0	兼5	
	人間と社会	法学入門	1後	1			○			1						
		政治学入門	2前		1		○								兼1	
		経済学入門	1後		1		○								兼1	
		経営学入門	1前	1			○			1						
		行政法	2前		2		○			1						
		マーケティング入門	1後	2			○			2						オムニバス
		統計学	1前		2		○			1						
		情報科学	1後		2		○			1						
		会計学入門	1前	2			○				1					
		簿記入門	1後		2		○				1					
		社会学と社会システム	2前		2		○			1						
		家族社会学	3前		2		○								兼1	
		（小計12科目）	－	6	14	0	－			5	1	0	0	0	兼3	
	健康科学	生活科学	1後		1		○								兼1	
		環境科学	1後		1		○								兼1	
		健康とスポーツⅠ	1前	2				○							兼1	
		健康とスポーツⅡ	2前		2			○							兼1	
		（小計4科目）	－	2	4	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
	語学	日本語表現	1前	2				○							兼1	
		英語Ⅰ（基礎）	1後	2				○							兼1	
		英語Ⅱ（実践基礎）	2前		2			○							兼1	
		英語Ⅲ（実践応用）	2後		2			○							兼1	
		中国語	2前		2			○							兼1	
		韓国語	1後		2			○							兼1	
		小計（6科目）	－	4	8	0	－			0	0	0	0	0	兼3	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（総合福祉学部介護福祉マネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
専門基礎教育科目	社会福祉の基礎	医療福祉とマネジメント	1前	2			○			1	1				兼2 オムニバス
		社会福祉の原理と政策Ⅰ	1前		2		○								兼1
		社会福祉の原理と政策Ⅱ	1後		2		○								兼1
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2前		2		○								兼1
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2後		2		○								兼1
		薬理学	2前		1		○								兼1
		社会の理解Ⅰ	2前		2		○				1				
		社会の理解Ⅱ	2後		2		○				1				
		社会保障Ⅰ	2前		2		○								兼1
		社会保障Ⅱ	2後		2		○								兼1
		保健医療と福祉	2後		2		○								兼1
		医学概論	1後	2			○								兼1
		国際医療福祉論	3後		2		○								兼1
		公衆衛生学	2後		2		○			1					
		認知症の理解Ⅰ	2後		2		○					1			
		認知症の理解Ⅱ	3前		2		○					1			
		障害の理解Ⅰ	3前		2		○						1		
		障害の理解Ⅱ	3後		2		○						1		
		コミュニケーション技術Ⅰ	1後		1			○					1		
		コミュニケーション技術Ⅱ	2前		1			○					1		
		医療ソーシャルワーク論	3前		2		○								兼1
		ケアマネジメント論	3後		2		○								兼1
		リーダー論	4前		2		○				1				
		リハビリテーション論	2前		2		○								兼3 オムニバス
		ICFの理解	2前		1		○								兼1
		福祉用具と福祉機器	4前		1			○							兼1
		小計（26科目）	－	4	43	0		－		2	1	1	1	0	兼13
	経営の基礎	医療のしくみ	1前		2		○			1			1		オムニバス
		地域医療連携とチーム医療	3前		2		○			1					
		地域活性化と地域医療	3前	2			○			1					
		統計解析	2前		2		○			1					
		会計学Ⅰ	2前		2		○				1				
		簿記	2前		2		○				1				
		経営戦略	2後		1			○					1		
		経営分析論	3前		2		○						1		
		福祉サービスの組織と経営	3後	2			○								兼1
		介護施設経営	4前	2			○								兼1
		小計（10科目）	－	6	13	0		－		3	1	0	1	0	兼1
	マネジメント理論	医療経済学	3前		2		○								兼1
		医療流通システム論	3前		2		○			1					
		医療マーケティング	3後		2		○			1					
		原価計算	2後		2		○								兼1
		会計学Ⅱ	2後		2		○				1				
		監査論	3前		2		○				1				
		医療経営戦略	4前		1			○					1		
		組織心理学	4前		2		○				1				
		経営管理論	4後		2		○								兼1
		人的資源管理論	4前		2		○				1				
		企業法務	4後		2		○								兼1
		小計（11科目）	－	0	21	0		－		1	2	0	1	0	兼4

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（総合福祉学部介護福祉マネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門教育科目	医療管理と実務	医療管理総論	2後		2		○				1					
		医療管理各論Ⅰ	3前		2		○			1						
		医療管理各論Ⅱ	4前		2		○								兼1	
		医療管理各論Ⅲ	4後		2			○		1	1					共同
		医療関連法規	4前		2		○								兼1	
		医療安全・臨床倫理	3後		2		○				1					
		秘書学	3前		2		○								兼1	
		文書作成技術	3後		2		○								兼1	
		診療報酬請求事務Ⅰ	3前		2		○								兼1	
		診療報酬請求事務Ⅱ	3後		2		○								兼1	
		小計（10科目）	－	0	20	0		－		1	1	0	0	0	兼4	
	介護福祉	発達と老化の理解Ⅰ	3前		2		○								兼1	
		発達と老化の理解Ⅱ	3後		2		○								兼1	
		こころとからだのしくみⅠ	2前		4		○			1						
		こころとからだのしくみⅡ	2後		4		○			1						
		介護の基本Ⅰ	1後		4		○						1			
		介護の基本Ⅱ	2後		4		○						1			
		介護の基本Ⅲ	3後		4		○						1			
		介護過程Ⅰ	1後		2			○				1				
		介護過程Ⅱ	2前		2			○				1				
		介護過程Ⅲ	3前		1			○				1				
		生活支援技術ⅠA	1前		2			○					1			
		生活支援技術ⅠB	1後		2			○					1			
		生活支援技術ⅡA	2前		4		○						1			
		生活支援技術ⅡB	2後		2		○						1			
		生活支援技術ⅢA	3前		2		○						1			
		生活支援技術ⅢB	3後		4		○						1			
		介護総合演習ⅠA	1後		1			○					2			共同
		介護総合演習ⅠB	3後		1			○					2			共同
		介護総合演習ⅡA	2前		1			○					2			共同
		介護総合演習ⅡB	2後		1			○				1	1			共同
		介護実習Ⅰ型基礎	2前		1				○		1	1	3			共同
		介護実習Ⅰ型応用	4前		1				○		1	1	3			共同
		介護実習Ⅱ型基礎	2後		3				○		1	1	3			共同
		介護実習Ⅱ型応用	3前		5				○		1	1	3			共同
		医療的ケアⅠ	4前		4		○								兼1	
		医療的ケアⅡ	4後		2			○							兼1	
		医療的ケアⅢ	4後		1			○							兼1	
		認知症ケア論	4前		2		○			1		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		介護報酬請求事務	4前		2			○							兼1	
		小計（29科目）	－	0	70	0		－		1	1	1	3	0	兼4	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（総合福祉学部介護福祉マネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
	地域マネジメント	事業構想論	3後		2		○			1						
		持続可能社会と地域医療福祉経営	4後	2			○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		サービス産業論	4前		2		○			1						
		地域連携実践	3前		2			○		2						共同
		ソーシャル・ビジネス	4後		2		○								兼1	
		小計（5科目）		2	8	0		－		2	0	0	0	0	兼1	
	総合科目	基礎演習	1通	2				○			3	1	4			共同
		専門演習Ⅰ	3通	2				○		6	3	1	1			共同
		専門演習Ⅱ	4通	2				○		6	3	1	1			共同
		卒業研究	4通		4			○		6	3	1	1			共同
		小計（4科目）		6	4	0		－		6	3	1	4	0		
合計（128科目）			－	30	224	0		－		6	3	1	4	0	兼37	

学位又は称号	学士（福祉経営学）	学位又は学科の分野	福祉経営学

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
必修科目30単位、基礎教育科目の選択科目から12単位以上、専門基礎教育科目の選択科目から30単位以上、専門教育科目の選択科目から52単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限45単位（年間）） （ｵﾑﾆﾊﾞｽ）共同	１学年の学期区分	２ 期
	１学期の授業期間	15 週
	１時限の授業時間	90 分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（総合福祉学部ソーシャルワーク学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教育科目	人間と文化	人間関係とコミュニケーションⅠ	1前		2		○								兼1	
		人間関係とコミュニケーションⅡ	1後		2		○								兼1	
		人間の尊厳と自立	2前		2		○								兼1	
		倫理学	1前		2		○								兼1	
		文化人類学	2後		2		○								兼1	
		教育学	2前		2		○								兼1	
		文学	2後		1		○								兼1	
		北海道史	1後	1			○								兼1	
		心理学と心理的支援	1前	2			○								兼1	
		発達心理学	1後		2		○								兼1	
		ボランティア活動	1後		1		○				1					
		（小計11科目）	－	3	16	0		－		0	1	0	0	0	兼6	
	人間と社会	法学入門	1後	1			○								兼1	
		政治学入門	2前		1		○								兼1	
		経済学入門	1後		1		○								兼1	
		経営学入門	1前		1		○								兼1	
		行政法	2前		2		○								兼1	
		マーケティング入門	1後		2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		統計学	1前		2		○								兼1	
		情報科学	1後		2		○								兼1	
		会計学入門	1前		2		○								兼1	
		簿記入門	1後		2		○								兼1	
		社会学と社会システム	2前	2			○								兼1	
		家族社会学	3前		2		○			1						
		（小計12科目）	－	3	17	0		－		1	0	0	0	0	兼8	
	健康科学	生活科学	1後		1		○								兼1	
		環境科学	1後		1		○								兼1	
		健康とスポーツⅠ	1前	2				○							兼1	
		健康とスポーツⅡ	2前		2			○							兼1	
		（小計4科目）	－	2	4	0		－		0	0	0	0	0	兼3	
	語学	日本語表現	1前	2				○							兼1	
		英語Ⅰ（基礎）	1後	2				○							兼1	
		英語Ⅱ（実践基礎）	2前		2			○							兼1	
		英語Ⅲ（実践応用）	2後		2			○							兼1	
		中国語	2前		2			○							兼1	
		韓国語	1後		2			○							兼1	
		小計（6科目）	－	4	8	0		－		0	0	0	0	0	兼3	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（総合福祉学部ソーシャルワーク学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎教育科目	社会福祉の基礎	医療福祉とマネジメント	1前	2			○			2					兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		社会福祉の原理と政策Ⅰ	1前	2			○			1						
		社会福祉の原理と政策Ⅱ	1後	2			○			1						
		ソーシャルワークの原理	1後	2			○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2前	2			○				1					
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2後	2			○					1				
		社会保障Ⅰ	2前	2			○			1						
		社会保障Ⅱ	2後	2			○			1						
		貧困に対する支援	3前		2		○								兼1	
		高齢者福祉	1後		2		○					1				
		障害者福祉	1前		2		○				1					
		児童・家庭福祉	2後		2		○			1						
		権利擁護を支える法制度	3前	2			○								兼1	
		刑事司法と福祉	4前		2		○								兼1	
		保健医療と福祉	2後	2			○			1						
		医学概論	1後	2			○								兼1	
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1前	2			○						1			
		社会福祉調査の基礎	2前		2		○								兼1	
		国際医療福祉論	3後		2		○					1				
		公衆衛生学	2後		2		○								兼1	
		カウンセリング	2後		2		○								兼1	
		医療ソーシャルワーク論	3前		2		○			1						
		ケアマネジメント論	3後		2		○								兼1	
		リーダー論	4前		2		○								兼1	
		リハビリテーション論	2前	2			○								兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ICFの理解	2前	1			○								兼1	
		福祉用具と福祉機器	4前		1			○							兼1	
		小計（27科目）	－	27	25	0	－			3	2	1	1	0	兼16	
	経営の基礎	地域医療連携とチーム医療	3前		2		○								兼1	
		地域活性化と地域医療	3前		2		○								兼1	
		福祉サービスの組織と経営	3後	2			○				1					
		介護施設経営	4前	2			○				1					
		小計（4科目）	－	4	4	0	－			0	1	0	0	0	兼2	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（総合福祉学部ソーシャルワーク学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	4前		2		○			1						
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	1後	2			○					1				
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2前	2			○					1				
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	2後		2		○						1			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	3前		2		○			1						
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅴ	3後		2		○				1					
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅵ	4前		2		○				1					
		精神医学と精神医療Ⅰ	3前	2			○								兼1	
		精神医学と精神医療Ⅱ	3後	2			○								兼1	
		現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	1後		2		○				1					
		現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2前		2		○				1					
		精神保健福祉の原理Ⅰ	2前		2		○				1					
		精神保健福祉の原理Ⅱ	2後		2		○						1			
		精神保健福祉制度論	3後		2		○				2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		精神障害リハビリテーション論	4前		2		○				1					
		医療的ケア	4後		2		○								兼1	
		終末期ケアとソーシャルワーク	4前		2		○								兼1	
		認知症ケア論	4前		2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		小計（18科目）	－	8	28	0		－		1	2	1	2	0	兼4	
	管理運営の実践	経営管理論	4後		2		○								兼1	
		人的資源管理論	4前		2		○								兼1	
		医療管理総論	2後		2		○								兼1	
		医療安全・臨床倫理	3後		2		○								兼1	
		持続可能社会と地域医療福祉経営	4後		2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地域連携実践	3前		2			○							兼2	共同
		ソーシャル・ビジネス	4後		2		○								兼1	
		小計（7科目）	－	0	14	0		－		0	0	0	0	0	兼4	
	ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2前	1				○		1	2	2	1			共同
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	2後	2				○		1	2	2	1			共同
		ソーシャルワーク演習Ⅲ	3前	1				○		1	2	2	1			共同
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	3後		1			○		1	2	2	1			共同
		ソーシャルワーク演習Ⅴ（精神）	3前		1			○			2		1			共同
		ソーシャルワーク演習Ⅵ（精神）	3後		1			○			2		1			共同
		ソーシャルワーク演習Ⅶ（精神）	4前		1			○			2		1			共同
		小計（7科目）	－	4	4	0		－		1	4	2	2	0		
	ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2後		1			○		2	1	1	1			共同
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3通		2			○		3	2	2	1			共同
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（精神）	3後		1			○			2		1			共同
		ソーシャルワーク実習指導Ⅳ（精神）	4通		2			○			2		1			共同
		ソーシャルワーク実習Ⅰ	3通		6				○	3	2	2	1			共同
		ソーシャルワーク実習Ⅱ（精神）	4通		5				○		2		1			共同
		小計（6科目）	－	0	17	0		－		3	4	2	2	0		

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（総合福祉学部ソーシャルワーク学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
	総合科目	基礎演習	1通	2				○			4	2	2			共同
		専門演習Ⅰ	3通	2				○		4	4	2				共同
		専門演習Ⅱ	4通	2				○		4	4	2				共同
		卒業研究	4通		4			○		4	4	2				共同
		小計（4科目）	－	6	4	0	－			4	4	2	2	0		
合計（106科目）			－	61	141	0	－			4	4	2	2	0	兼36	

学位又は称号	学士（社会福祉学）	学位又は学科の分野	社会福祉学

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
必修科目61単位、基礎教育科目の選択科目から12単位以上、専門基礎教育科目の選択科目から21単位以上、専門教育科目の選択科目から30単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限45単位（年間）	１学年の学期区分	２ 期
	１学期の授業期間	15 週
	１時限の授業時間	90 分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（総合福祉学部介護福祉マネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	人間と文化	人間関係とコミュニケーションⅠ	福祉サービスを必要としている人への支援は人間関係の形成が基盤となる。その形成に必要なコミュニケーションについて基礎的な知識を修得する授業である。対人支援は、ご本人およびご家族、多職種が連携しチームで行うという理解が不可欠であることから、コミュニケーションの基礎に加え、チームマネジメントに関する知識も理解し、円滑な対人支援が行えるための能力を養う。具体的には、①福祉理念を理解したうえでの倫理観、権利擁護の視点、②人間関係形成に必要となる自己理解、他者理解を基盤にした心理学的支援、③対人関係におけるコミュニケーションの意義、④コミュニケーション技法に関する知識を学修する。	
		人間関係とコミュニケーションⅡ	福祉サービスを必要としている人への支援は人間関係の形成が基盤となる。その形成に必要なコミュニケーションについて、「人間関係とコミュニケーションⅠ」での学びをさらに積み上げていくことを目指す。対人支援は、ご本人およびご家族、多職種が連携しチームで行うという理解が不可欠であることから、コミュニケーションの基礎に加え、チームマネジメントに関する知識も理解し、円滑な対人支援が行えるための能力を養う。具体的には①組織内のコミュニケーションに関する知識、②介護サービスの特性とマネジメントの重要性、③介護サービスを行う組織とその運営管理、④チーム運営の基本、⑤人材育成と人材管理に関する知識を学修する。	
		人間の尊厳と自立	人間の理解を基礎として尊厳の保持と自立について理解し、医療福祉専門職に求められる倫理的課題への対応能力の基礎を養うことを目指す。殊に、以下の内容を含むように配意する。①多様性の尊重に対する基本的理解を養う。②福祉理念の歴史を学ぶことを通し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う。また、利用者本位の観点から自立の概念、自立生活の理解を通しその生活を支える必要性を理解する。	
		倫理学	「倫理」とは人が生きていくために価値や規範としての「ありかた」を問い続ける学問である。そして医療はそのなかで「あるべき」姿を追いかけることの困難さを実感し続ける現場である。本科目では「命の倫理」が生まれた歴史的背景を基盤としつつ、前半では医療人としての倫理観を身につけ育てていくのに必要とされる視点や方法について、後半では臨床で必要とされる基本的概念と日常感覚との接点を中心に学修する。	
		文化人類学	「地球市民の基礎教養」といわれる文化人類学は、考現学の一種です。今・ここにあるモノやヒト、ことがらが、文化化された事象を扱う学問である。その目的は異文化理解力を身につけ、他者を深く理解するとともに、自らの文化を客観的にとらえる訓練する。具体的な事例を、聞き取り調査と参与観察による現地のフィールドワークで収集し、データ化するという特徴があるため、理論の講義はない。文化人類学は多くの下位分類がある。特に介護系のキャリアを目指す学生達には是非一度は聞いてもらいたい医療・介護人類学を中心に講義する。	

		教育学	代表的な教育思想とその歴史的背景に焦点を当て、教育は人間が生きる上でどういう意味を持っているのか、また社会の中でどのような役割を果たしているのかという二つの点から考察する。教育の本質を人間の発達と学校教育のあり方（内容と方法）、教育を取り囲む社会、法制度との関連で明らかにする。新学習指導要領に伴う大きな変化をふまえて、題材は「教育の課程と方法」を中心にして講義する。	
		文学	主に日本文学に限定し、今なお影響力を持ち、我々の行く末を照らしてくれている文学作品を精読、分析する。さらに、現代には、ボブ・ディランの歌詞がノーベル文学賞を取ったり、Twitterのつぶやきが小説になったりと時代とともに文学の形態は変わってきており、そうした時代の変化についても学修する。	
		北海道史	本講義は、北海道の近現代史を毎回別の歴史的事項を通して理解する。これまで学んできた通史としての歴史ではなく、曾祖父母、あるいは祖父母世代が経験したかもしれない風景に端を発し、その今に至るまでの経緯を学ぶ。受講する学生は興味を持った歴史的事項を自らのテーマとし、その課題に沿った情報の収集や、そのために教員が作成した副読冊子をガイドブックとして視察、見学などの自学自習に取り組む。	
		心理学と心理的支援	社会福祉領域において必要とされる基本的な心理学理論と心理学的援助技法について学ぶ。具体的には、「心理学の視点」「人の心の基本的な仕組みと機能」「人の心の発達過程」「日常生活と心の健康」「心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本」「ソーシャルワークと心理学」を理解する。	
		発達心理学	本講義では、乳幼児期から老年期までの発達の過程を取り扱う。人の発達の概念と発達を形成する諸要素および影響要因、また、ピアジェ、フロイト、エリクソンなどの発達理論を学修し、各発達段階における特徴的な行動や発達課題について学び、人の発達の一般的特徴について理解する。また、パーソナリティ形成への影響、行動との関連についての学修から、各個人の発達の特徴を理解する。これらを通し、他者の発達を見通す力をつけ、さらに、各発達段階に特徴的な発達の危機を理解し、そこからの脱却についても考え、深める。	
		ボランティア活動	21世紀の地域共生社会の構築に向けた課題の一つは、ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョンを理念とした地域福祉の推進である。この地域福祉の推進の主体は、地域住民、社会福祉を目的とする事業を経営する者、そしてボランティアやNPOなど社会福祉に関する活動を行う者である。そして地域福祉は住民参加を不可欠とする。このボランティア活動は今日の住民参加の一形態である。ついては、21世紀の私たちの生活のしづらさを支援する地域福祉の推進に向けて、社会福祉の基本法である社会福祉法の趣旨に依拠しつつ、実践論的な視点からボランティア活動を検討し実際活動に結びつけられることをねらいとする。	
	人間	法学入門	法は私たちの社会生活に深く関わっています。たとえば、大学生が、大学へ通学する際に公共交通機関を利用し（運送契約）、店で弁当を買い（売買契約）、大学の教室で講義を受ける（在学契約）だけでも複数の法律関係（ここでは契約関係）が存在している。もはや私たちは生活する上で法と無関係ではいられず、それゆえ、社会に生きる者として法を学ぶことが必要不可欠であり、生活と関連させながら法を学修する。	

	と社会	政治学入門	どんな分野においても、世の中の仕組みを作っていく政治と無関心ではいられない。政治とは利害調整の仕組みともいえる。政治学の基礎を学ぶことで、そうした仕組みを理解し、世の中の諸問題を考察し、分析する力を養うことを目指す。特に、医療福祉において本人支援に必要な自由主義や民主主義の概念の知識修得をめざす。	
		経済学入門	経済学を初めて学ぶ学生を対象とし、平易にその内容を紹介する。基礎的な知識の理解となるよう、経済学の学修に必須となる用語、概念、理論について学ぶ。とくに、経済理論の一分野であるミクロ経済学を取り上げ、市場、生産、消費、競争など主要な要件に関連する知識を教授し、企業経営と関連させ理解を促す。	
		経営学入門	経営学の入門科目として、一般的な経営理論を学び、医療経営に必要となる基本的なマネジメント概念の整理を行う。「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」等から構成される事業のゴーイング・コンサーン（存続・発展）に対する思考の整理ができるよう、代表的な経営事例を用いて、マネジメントの概要について理解させる。	
		行政法	行政法は、行政と私人の間や行政と行政の間を規律する法である。ところで、上下水道、道路、学校、などなど、私たちは行政サービスに依存して生活している。また、鉄道やバスなど民間企業による公共的サービスも、料金決定その他について、行政が大きく介入して、提供されている。また、社会保障・社会福祉の制度も、行政自体によっては行政が大幅にかかわって運用されている。つまり、行政法は私たちの日常生活に深く関わる法なのである。本授業では、行政法が私たちの生活や企業の活動においていかなる関わりを有しているかを具体的に明らかにしていく。その上で、その関わりで生じる法的問題に行政法がどのように対処しているかを、裁判例や学説を通して学ぶ。	
		マーケティング入門	（概要）医療福祉マネジメントの中でマネジメント分野の諸課題を理解する為、マーケティングの基本理論を中心に解説する。 （オムニバス方式　全15回） （1　加藤敏文/8回） マーケティングの定義や諸概念、歴史的発展の経緯、戦略と管理の考え方、マーケティング・ミックスの4対応のうち、価格と製品への対応を解説する。 （5　伊藤　一/7回） 後半は流通とコミュニケーション対応や消費者行動、サービスや関係性やソーシャルマーケティングなどを解説する。最終的にはケーススタディーによりマーケティング事象を分析できる能力を高め、グループで討論し、成果の相互評価を実施して内容の理解を深める。	オムニバス方式
		統計学	統計学は根拠に基づく医療(Evidence based medicine)を担う基盤科目である。データの集計・解析を通して、変数間の関連を整理し因果関係を推論する力は、保健医療福祉専門職にとって必須の資質となる。本講義は、1）調査、臨床、研究によって得られたデータを集計し要約する（記述統計学）、2）検定統計量を算出しそれをもとに関連を吟味する（推測統計学）、という統計学の主要概念を学ぶことを目的としている。代表値、平均・分散、標準偏差、信頼区間、有意水準などの指標に習熟し、仮説検定の判定手順についても理解する。統計調査の企画実施における倫理規定の遵守や個人情報の保護についての認識を深める。	

		情報科学	情報科学は根拠に基づく医療（EBM）を推進する上で基礎となる実践科目である。コンピュータに関するソフトウェア、ハードウェアを理解し、情報処理システムに精通することは、保健医療福祉専門職にとって必須の能力である。本講義は、1）インターネットサービスの利用、2）オンライン情報の検索、3）検索情報の収集と管理、といった広範な情報処理に習熟することに加え、4）セキュリティ保持とモラル遵守の姿勢を身につけることを目的としている。検索サイトやポータルサイトの特徴に応じて、必要な情報を収集し、電子カルテなどにより情報を提供・共有することは、院診連携をはかる上で有用である。現場で実際に活用できる情報処理能力を培うことは重要な課題である。	
		会計学入門	会計は社会を定量的に見る重要なツールである。この授業では会計がどのように社会に役に立ち、重要性を持つか学修する。入門となるためそれぞれの分野には深く踏み込まないが、全体像の把握と社会における役割という点を重視して授業を行う。	
		簿記入門	簿記は、帳簿に記入するためのルールを定めたものであり、「帳簿記入」という言葉からつくられた造語といわれている。会社などの組織は、その活動から生じるいろいろな事柄を整然と記録し、その利害関係者に経営成績や財政状態を明らかにしなければならないが、今日の複式簿記はこれら会計情報を作成する上の手段として欠くことができないものである。この授業では、簿記の基礎と位置づけ、簿記の仕組みと会計的思考の裏付けとなる考え方について学ぶ。	
		社会学と社会システム	人は弱者戦略として群れを作る動物です。ただ群れるだけなら集団だが、何らかのシンボルのもとに群れる、関係性や秩序が生まれるならそれは社会である。教科書がないと言われてきた社会学は挑戦的でおもしろい学問で、社会全体を丸ごとその考察の対象としている。講義形式の授業とFormsを利用した学習成果の確認によって、広範囲で多様なこの学問の各事項を効果的に学んでいく。	
		家族社会学	家族は長い間、人々にとって最も身近で基礎的な集団として、私たちの生き方を強く規制してきたが、いま大きく揺れ動き、その存在自体が問われるようになってきている。本講義では、変動しつつある家族の現状を理解するとともに、そのような変化をもたらしている要因について理解し、これからの家族のあり方について展望し、考えていくものである。	
	健康科学	生活科学	生活環境のあり方を科学的にとらえ、より良い環境をつくり出す基礎を学ぶ。社会と生活に対する理解を深め、知識や実践を福祉サービスを必要としている人への支援につなげられるようにする。	
		環境科学	人間の活動で影響を受けた自然環境の変化によって、新たな健康問題が引き起こされている。人間生活における自然環境の意義を理解し、環境破壊と健康障害について学び、これからの環境保全行動について考える。初めに近年の経済発展による環境問題を概観し、大気汚染と健康への影響、水質汚染と健康への影響、地球温暖化と健康への影響、酸性雨と健康への影響、災害による環境破壊、放射能被ばくと健康への影響を学ぶ。これからの社会における環境保全と生物多様性について考える。	

		健康とスポーツⅠ	スポーツを通して身体を動かす楽しさを知る。また、高齢化が進む現代社会における、様々な健康阻害要因について学び、青年期から健康に関心を持つことの重要性を理解する。さらに、身体能力の向上や疲労回復・ストレス発散を目的とした運動・スポーツについても理解を深め、運動・スポーツのあり方と実践的な指導方法および評価法についても学修する。文化・ツールとしてのスポーツについて理解し、社会の中でスポーツがどう役立っているかを学ぶ。	
		健康とスポーツⅡ	「健康とスポーツⅠ」で学んだ身体を動かす楽しさをもとに、グループワークを含めながら、子どもから高齢者、障害者、ストレスを抱える現代人が、どのように運動と関わればよいか、より深く学ぶ。さらに、散歩、体力づくり、ストレッチ、柔軟体操、野外活動など、リラクゼーションのあり方についても知見や体験を深め、健康であるために運動とスポーツがどのように関わるべきかを理解する。	
	語学	日本語表現	本科目の目的は、広く社会に通用する基本的な言語表現力を身につけることにある。コース前半では、「文書作成の技術」と題し、大学での学修に不可欠な文書作成技法について学ぶ。社会一般的なルールに加え、作法なども学修の視野に入れる。コース後半では、「日本語力を磨こう」と題し、場面に応じたわかりやすい日本語表現について学ぶ。なお本授業では、グループワークや相互チェックなど演習型の教室内活動を多く取り入れる。	
		英語Ⅰ(基礎)	医療に関する様々なトピックを英文で読み、基礎的な読解力を高める。英文を正確に読むためのスキルを身に付け、論理的に要約し、伝達することを目的とする。社会、心理など様々な視点から問題をとらえ、いろいろな英文を読むことで、単語理解や、語彙力の向上、読解力の養成を目指す。外国の社会や文化、外国人の価値観などを知る機会となり、異文化交流の動機付けとなり、今後の語学学修のモチベーションとなることを期待する。授業の初めには、新聞記事を読み、VOAのニュースやNHK World English Newsなどから、最新のニュースのリスニングを行う。	
		英語Ⅱ(実践基礎)	ロールプレイ、ペアワークなどで場面を想定して英語の修得をめざします。英語について考えること、発音練習、会話によるコミュニケーションが重視されます。英語を話すときに自文化について考え、他文化への理解を深めてもらいたいです。言葉によるコミュニケーションと言葉によらないコミュニケーションの両方に取り組みます。	
		英語Ⅲ（実践応用）	保健医療福祉分野における英文文献を教材として、正確に、論理的・批判的に読解する能力を身に付け、論文の内容を要約できることを目的とする。グループ抄読を通して、英文や論文内容の解釈についてディスカッションすることで、英文文献抄読を主体的に学修するための基礎的能力を育成することを目的とする。	
		中国語	隣国である中国とは、人事交流をはじめとして、経済・文化などすべての面で交流が盛んになっている。医療のグローバル化に向けて、国際的な動向をコミュニケーションをとおして理解することはきわめて重要である。本授業では、中国語の基礎や簡単な会話を学びつつ、現代中国の社会や文化についての理解を図る。異文化理解および外国語学習に意欲をもった履修を強く求めたい。	

		韓国語	隣国である韓国とは、人事交流をはじめとして、経済・文化などすべての面で国家間交流が盛んになっている。医療のグローバル化に向けて、国際的な看護の動向を知り、コミュニケーションをとおして理解することは重要である。そのため、本教科では韓国語の文字、発音など基礎的なことから日常生活で使う簡単な会話と読解能力を育成することを目的とする。また、本講義では韓国語をより上達させるため、コミュニケーションの背景知識になる韓流ドラマ・K-pop・動画などを活かし、韓国の社会や文化などを紹介し、理解を深める。	
専門基礎教育科目	社会福祉の基礎	医療福祉とマネジメント	（概要）少子高齢化と過疎化の進展による医療機関や福祉施設の患者・利用者数の減少に加え、ニーズの多様化や専門職人材の確保の難しさが年々進んでいる。さらに新たに出現した感染症の影響により、医療機関や福祉施設の経営・管理は困難な局面にさらされている。こうした困難な局面に柔軟に対応していくためには、医療や福祉の基礎知識に加え、医療機関や福祉施設の運営・管理に携わる専門多職種との連携、マネジメント能力が必要である。本科目では医療機関や福祉施設の専門職人材の理解と、運営・管理のあり方をふまえたマネジメントについて学修する。 (オムニバス方式全15回) （5　伊藤　一/3回） 「⑬～⑮医療福祉とマネジメント理解」を担当する。 （8　平野啓介/4回） 「②～⑤介護のの専門職理解」を担当する。 （16　笹岡眞弓/4回） 「①イントロダクション、⑩～⑫医療の専門職理解」を担当する。 （②　鈴木幸雄/4回） 「⑥～⑨社会福祉の専門職理解」を担当する。	オムニバス方式
		社会福祉の原理と政策Ⅰ	現代社会ではさまざまな社会変動が起き、それに連動して生活問題や福祉ニーズも多様化・複雑化・複層化が進んでいる。そのなかで、本授業は社会福祉の原理と政策について多角的に考察し、現代社会における福祉問題を解決するための基礎を築くことを目標とする。特に、原理、歴史、思想、理論、社会問題と社会構造、福祉政策の基本的な視点に焦点をあてて学ぶ。	
		社会福祉の原理と政策Ⅱ	「社会福祉の原理と政策Ⅰ」で学んだことをもとに、本講義では、福祉専門職として福祉問題を解決していくための体系的な理論と技術を身につけることを目標とする。現代にある社会的問題の解決に取り組むにあたっての基礎（社会福祉学的な想像力）を身につけることも目指す。特に、福祉政策におけるニーズと資源、福祉政策の動向と課題、福祉サービスの供給と利用過程を中心に学ぶ。	
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	社会福祉法の第１条において、「地域における社会福祉の推進」と記述され、それを受けて、第4条は地域福祉の推進について記述されているほど、今日社会福祉における地域福祉の概念は重要とされている。それに呼応するように、新たな地域福祉の推進事業が国から示されている。そこで、本講義では、地域福祉の歴史、考え方、理論について概説し、地域福祉を支える社会資源をそれぞれ紐解くことで、有機的な連携の方法と地域共生社会の実現に向けた地域包括ケアシステムをはじめとする包括的支援体制について、地域の各層ごとに構築する必要性を学ぶ。	

		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	地域福祉を推進するために、福祉行財政の実施体制、福祉計画の意義・目的、包括的支援体制の考え方、多職種連携及び多機関協働、地域生活課題の変化と現状を踏まえる。そのうえで、包括的支援体制における社会福祉士などの役割を理解する。特に、社会福祉士などの作成参画が今後期待されている福祉計画に重点を置き、地域福祉計画と地域活動計画、医療との連携について理解を深める。	
		薬理学	薬物療法が必要な患者に対し、疾病の治癒・生活力回復の促進、対象者自身の服薬管理能力向上のための薬剤知識を習得するために、障害機能別の薬剤療法と使用法の注意点の知識と、薬剤相互作用などの知識を学ぶ。	
		社会の理解Ⅰ	人間は、個、集団、社会の単位で生活するという視点を養い、社会と生活との関係性を体系的に捉えていく。対象者の生活の場と地域共生社会や地域包括ケアの概念を理解するとともに、日本の社会保障の基本的考えやしくみについて学修する。具体的には①生活の場の理解、②自助・互助・共助・公助の理解、③地域共生社会の実現にむけた制度・しくみの理解、④社会保障制度の基本的考え方・しくみ（社会保険と社会扶助）に関する知識を身につける。	
		社会の理解Ⅱ	「社会の理解Ⅰ」を踏まえ、社会保障制度の基本的考え方・しくみを振り返り、高齢者福祉、障害福祉および権利擁護等の制度・施策について詳細に学修をする。具体的には、①社会保障制度の現状と課題、②高齢者福祉と介護保険制度の現状と課題、③障害者福祉の現状と課題、④公的扶助（生活保護制度）の現状と課題、⑤人間の尊厳と自立に関わる権利擁護制度、地域生活を支援する制度、保健医療に関する制度、介護との関連領域との連携に必要な制度に関する知識を身につける。	
		社会保障Ⅰ	社会保障の歴史・理念・機能・構造・財源などの基盤を捉え、年金・医療保険・介護保険・労働保険・社会保険・民間保険といった各制度の概要と現状を理解する。また、各国における社会保険の課題を踏まえた上で、わが国の今日的課題について講義する。社会保障Ⅰでは、主に今日的社会保障の動向、わが国と諸外国の社会保障の歴史、理念、概念、役割、社会保障の財源、及び公的保険と民間保険の関係について学ぶ。	
		社会保障Ⅱ	社会保障Ⅰでの学びをもとに、主に年金、医療保険、介護保険、労働保険、社会保険、民間保険の概要と児童福祉、障害者福祉、社会手当制度の概要、諸外国社会保障制度の概要を学ぶことで、わが国の社会保障制度の現状と課題についても理解を深め、社会保障制度の今後のあるべき姿をも含めて考える力を涵養することを目指す。	
		保健医療と福祉	わが国の保健医療サービスはいつでも安心して医療を受けられる国民皆保険によって支えられてきた。しかし、少子高齢社会の急速な進行とともに、医療法、医療保険制度、診療報酬制度等は様々に変更されている。わが国の保健医療サービスは歴史的な経緯を踏まえてかなり特徴的である。その特徴と、医療現場の現状や医療・保健分野の仕組みとチーム医療を理解し、さらに保健医療サービスを患者・家族の届けてきた医療ソーシャルワーカーの役割・機能について理解する。	

		医学概論	医学概論では、「人の生涯にわたる成長と発達と老化の変化の特徴」「身体構造と心身の機能と題した人体の解剖学・生理学」「福祉業務において、関係する疾病や障害について」「リハビリテーション、国際生活機能分類、健康の捉え方」について講義をする。	
		国際医療福祉論	世界の医療福祉に関わる制度と実践は大きく日本の現状とは異なる。ジェームス・ミッジリィの国際社会福祉論やエスピン・アンデルセンの福祉レジーム論による各国の医療福祉制度とその背景を比較し、その相違点を理解する。しかし、制度が異なるというだけで終わっては学ぶ意味がなく、いまの日本に必要な仕組みへの示唆を他国の現状から得る。特に、日本が学んできたイギリスやデンマークのコミュニティケアを中心に、日本の地域包括ケアシステムの新たな仕組みづくりを展望する。	
		公衆衛生学	公衆衛生の原義は、「すべての人の生命と生活を守る」ことである。公衆衛生学は、保健・医療・福祉を包括する総合科目であり、この分野の専門職が連携共同するために必要不可欠な共通言語である。本講義は疾病・障害の予防、健康の保持・増進を社会として達成するための基本的な考え方と歴史的経緯、制度を学ぶことを目的としている。公衆衛生を支える基礎科学である疫学、統計学の知識および技術の基礎を理解、修得し、あわせて公衆衛生活動に関わる計画や評価に必須な手法（地域アセスメント、保健計画策定）の基礎についても学ぶ。	
		認知症の理解Ⅰ	認知症の人の心理や身体機能、認知症を取り巻く状況、社会的側面に関する知識を修得するとともに、認知症の歴史や理念、国の方針や施策等について理解する。また、認知症の原因となる主な疾患や症状の特徴、認知症の検査・診断、薬物療法・非薬物療法を学び、それによって引き起こされる機能の変化や日常生活への影響について理解する。特に、認知症のケアの理念や視点、生活支援を行うためのエビデンスとなる知識を得る内容とすることを目指す。	
		認知症の理解Ⅱ	「認知症の理解Ⅰ」の内容理解を基に、認知症の人を中心に据えながら、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解する。認知症の人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症のケアの実践や、認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や多職種連携・協働による支援による基礎的な知識を理解する。また、認知症の人を支える家族の課題についても理解し、レスパイトケアの必要性とともに、家族の介護力に応じた支援についても理解できることを目指す。	
		障害の理解Ⅰ	障害のある人に対する支援を適切に行うため、障害の概念や基本的理念さらには医学的・心理的側面の基礎的な知識、さらにはライフステージや障害特性を踏まえ、生活に及ぼす影響についても学修する。具体的には、①障害の概念・定義、②障害者福祉の基本理念、③障害を持つ方の医学的側面の理解、④障害を持つ方の心理的側面の理解、④障害に伴うライフステージ上の影響、⑤障害のある人の障害特性に応じた支援に関する知識を身につける。	
		障害の理解Ⅱ	「障害の理解Ⅰ」を踏まえ、障害のある人の地域生活を理解し、本人に加え家族やその地域を含めた周囲（環境）への支援についても理解する。具体的には、①地域生活の現状と課題、②障害のある人の就労、③障害のある人の生活環境と自立支援、④障害のある人の生活の質を高めるための支援、⑤地域におけるサポート体制と多職種連携、⑥障害のある人の家族支援に関する知識を身につける。	

		コミュニケーション技術Ⅰ	介護を必要とする人との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法について学修する。講義や演習をとおして、本人の置かれている状況を理解し、支援関係の構築や意思決定を支援するための基本的なコミュニケーション技術を修得する。また、家族の置かれている状況・場面を理解し、家族への支援やより良いパートナーシップを構築するための基本的なコミュニケーション技術の修得を目指す。具体的には①コミュニケーションの目的、意義、②信頼関係の構築に必要とされる技術、③コミュニケーションの技法の実際、④家族とのコミュニケーションの目的、⑤家族と介護を必要とする人との意向調整に関する知識を身につける。	
		コミュニケーション技術Ⅱ	コミュニケーション技術Ⅰを踏まえ、様々な障害とその特性に応じたコミュニケーションの基本的技術を修得する。また、チーム内での情報を適切にまとめ発信するために、介護実践おける情報の共有化の意義を理解しその具体的な方法や管理・活用について理解する。具体的には、①障害（身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、難病等、生活のしづらさを抱えている人）の特性とそのコミュニケ―ション技法の理解、②チームのコミュニケーションの意義、③会議の種類やその開催方法や参加の仕方、情報管理等に関する知識を身につける、④記録および情報の共有化（報告・連絡・相談・確認）の具体的方法を理解する。	
		医療ソーシャルワーク論	疾病構造の変化、医学・医療技術の急激な進歩によりわが国の医療を取り巻く環境も激変してきている。このような状況の下、保健医療分野の専門職として、病院、在宅医療などにおける医療ソーシャルワーカーの役割への期待が高まっている。この講義では、医療福祉の歴史を踏まえ、医療ソーシャルワーカーの業務・役割・機能について理解する。	
		ケアマネジメント論	わが国では介護保険制度や障がい者制度を契機に、「ケアマネジメント」という用語は定着してきた。人々が地域による見守りや支援を受けながら、望ましい生活の維持のためのさまざまな複合的な課題に対して、生活の目標とそのための課題解決に至る道筋と方向を明らかにし、地域にある資源を活用し、総合的かつ効率的に課題解決を図っていくプロセスと、それを支えるシステムといえる。地域福祉実践を進めるうえで、個別のニーズに対する直接的で包括的なアプローチだけでなく、チームアプローチに必要な保健・医療・福祉の連携のあり方やサービス提供のシステム、福祉サービス運営管理のあり方など、地域包括ケアが目指す福祉コミュニティの構築が求められる。福祉サービス利用者が地域社会の中で自立した生活を営むことができるような支援について、資源開発なども含めて学ぶ。	
		リーダー論	対人支援の専門職として、利用者の望む生活を実現するためには、専門職個人の力だけではなく、チームとして力を発揮することが求められる。チームを牽引するリーダーの役割は大きく、人材育成と能力を結集して、チームが掲げる目標を成し遂げることにある。利用者の意向を尊重しつつ、生活ニーズを充足するための支援目標に焦点をあて、チーム全体をコーディネートする。リーダーは人材育成、組織をマネジメントする力が求められる。そのためには、チームメンバーや利用者の声に傾聴し、ニーズを捉える判断力と的確な伝達力、人材育成のためのスーパービジョン、リーダー自身の感情コントロール、さらには自己研鑽を積む必要がある。本科目では、リーダーとしての資質・役割を学修するとともに、チームとしての力を発揮するための基礎を修得する。	

		リハビリテーション論	（概要）リハビリテーションサービスは、心身に障害を持たれた方に複数の専門職により提供される。特に複雑な課題をもつケースへの支援の場合、福祉専門職はリハビリテーションチームの中でも欠かせない役割を果たす。本講義の中では、まずリハビリテーションの理念を歴史的背景から学ぶ。次に健康や障害の概念、また障害の種類や程度に応じた各種のリハビリテーションおよび地域におけるリハビリテーションの役割について理解し、障害を持たれた方に対するチームアプローチの中で福祉専門職に求められる機能と役割について理解する。最後に超高齢社会のわが国における地域包括ケアシステムの概要について学び、利用者へのより良いサービス提供について考えていく。 (オムニバス方式全15回) （23　太田　誠/5回） 「①②イントロダクション、⑬～⑮これからの総括」を担当する。 （25　向井康詞5回） 「③～⑦理学療法士の立場からのリハビリテーション」を担当する。 （27　大堀具視/5回） 「⑧～⑫作業療法士の立場からのリハビリテーション」を担当する。	オムニバス方式
		ICFの理解	ICF（国際生活機能分類）についての理解を深め、人を支援する専門職として必須である「人が生きるということ」を総合的に理解し、アセスメントやケースの考察、多職種とのコミュニケーションにおける生活機能の定義や表現など支援への活用を学ぶ。具体的には、ICF成立に至る過程の中で「障害」や「人が生きること」がどのようにとらえられてきたかの考察を入口に、「分類」としてのICFに触れつつ、主にはそこに示される「社会生活モデル」の考え方を中心に理解を深める。各自の目指す専門性に基づいた支援アプローチの中で、ICFそして「社会生活モデル」を基礎とする思考ができ、活用できる能力を身につけることを目的とする。	
		福祉用具と福祉機器	福祉用具（機器・介護ロボット含む）は、福祉用具法において、「心身の機能が低下し、日常生活を営むのに支障のある老人または心身障害者の日常生活の便宜を図るための用具及びこれらの者の機能訓練のための用具並びに補装具」を総称するものと定義されているが、介護保険法での福祉用具の給付と貸与制度が加わり、福祉用具の範囲も拡張し、また、ロボット産業政策として介護ロボットの開発も進められている。また、日本における介護ニーズの急増や人手不足、担い手の負担軽減や介護の質の確保・向上のための福祉用具の利活用が進められている。本講義では、福祉用具の定義と種類、知識や技術、利用者のADL等の改善や介護負担軽減などの福祉用具の役割や利活用について学びます。	

	経営の基礎	医療のしくみ	（概要）地域包括ケアシステムの中の医療サービスの位置づけを学び、それらと関連する福祉連携のしくみを含む医療政策、医療制度について理解を深め、医療施設経営の基本的な認識の基盤となる医療のしくみについて理解する。医療経営の歴史的背景から超高齢社会となった現代の医療サービスをとりまく外部環境との関連において、現代社会における医療サービスの重要性を認識し、それに従事することの使命感を涵養する。 （オムニバス方式/全15回） （13　坂野大樹/6回） 1回～6回：医療におけるマクロ的視点（制度、機関の役割など）について概説する。 （6　照井レナ/9回） 7回～10回：患者、治療、診断のミクロ的視点について、説明し、具体的な医療について理解を促す。11回～14回：医療と福祉の相違と共通点、専門職の役割等医療をとりまく種々の環境や事象について説明し、それらとの関係の上で成り立つ医療の仕組みについての理解を促進する。15回：最終的に学びを統合し医療のしくみについてまとめる。	オムニバス方式
		地域医療連携とチーム医療	超高齢社会となった我が国の地域医療政策における重要な基本概念である「地域包括ケアシステム」を理解し、患者を中心としたその人らしい生活の支援を可能にするチーム医療を担う専門職の役割と機能について理解する。それらの理解をもとに、地域住民の健康福祉に貢献するための多職種連携のしくみづくりやチームによるサービス供給のマネジメントについて学ぶ。	
		地域活性化と地域医療	地域の抱える医療の問題点を考察し、そのための解決策である、活性化策を共同で考察することを目的とする。医療福祉マネジメント学科にて、これまで修得した基礎科目（福祉介護関連・および社会科学の経済学、経営学、マーケティング、会計学関連科目）の知識を有機的に活用させ、地域医療の重層的課題の抽出と解決策を策定させる。これにより修得済み科目の有用性と応用性を理解させ、今後の就学の方向性を学生が見出せるよう指導する。授業では基礎的理論を理解させるため、講義にて核心的視点や解析の方法論を説明し、実践的事例を題材にケーススタディを実施し、この後アクティブ･ラーニングが可能なように自らの解決策を構築できるよう問題解決型学習（PBL）を実施し課題の抽出と解決策を討論できるよう指導する。	
		統計解析	統計解析は根拠に基づく医療（EBM）を推進する上で基幹となる解析技術である。データの集計・解析を通して、科学的、客観的に事象を捉える能力を涵養することは、保健医療福祉専門職の育成にとって重要な課題となる。 本講義は、1）所与のデータを集計・要約し記述統計量を算出する、2）設定された作業仮説を最適な統計手法を用いて検定する、３）単変量・多変量解析法を併用駆使する、という広範な統計処理に習熟することを目的としている。 統計図表（ヒストグラム、箱ひげ図、散布図など）、単変量解析（ｔ検定、χ1検定など）、多変量解析（多重比較、分散分析、ロジスティック回帰分析など）の要諦を理解し、臨床現場で実際に活用できる能力と姿勢を培う。	

		会計学Ⅰ	「会計学入門」を入門編、「会計学1」を基礎編、「会計学Ⅱ」を応用編と位置づけているため、あわせて履修することを推奨する。本講義では、会計入門の履修を前提に、経営組織が、様々な経営活動を会計上どのように記録し、財務諸表という形に要約していくのかを学修する。後半の講義では、前半の講義の学習を前提に、財務諸表を利用した経営組織の分析方法について学修する。そのうえで、会計情報を組織マネジメントにいかに役立たせるかについて学修していく。	
		簿記	簿記は、帳簿に記入するためのルールを定めたものであり、「帳簿記入」という言葉からつくられた造語といわれている。会社などの組織は、その活動から生じるいろいろ事柄を整然と記録し、その利害関係者に経営成績や財政状態を明らかにしなければならないが、今日の複式簿記はこれら会計情報を作成する上の手段として欠くことができないものである。この授業では簿記の基礎期と位置づけ、簿記の特徴である決算整理を中心に財務諸表を作成することを学ぶ。	
		経営戦略	医療経営シミュレーションゲーム【医療経営MX】を使用する2日間の集中講義により、以下について触れ、医療機関経営のイメージをつかむ。1）ゲームを通じ、“ヒト・モノ・カネ・情報”への投資など、医療機関経営を体験しながら学ぶ。2）自分で手を動かしながらB/S、P/Lを作成することで、財務諸表の仕組みや管理会計に触れる。3）医療機関経営の戦略的な分析を実践する。4）会計情報と戦略的な分析結果を使い、経営計画(予算・投資計画)を考える。	
		経営分析論	財務分析、組織分析、戦略分析、市場分析、DPCデータなど経営分析に用いる具体的手法を紹介し、それらを多角的・総合的に検討することを通じて、一般企業や医療機関の経営分析ができる知識・技能を養うとともに、問題発見・解決能力の修得を図る。	
		福祉サービスの組織と経営	ソーシャルワークにおいて必要となる、福祉サービスを提供する組織や団体の概要について理解し、経営の視点と方法を理解することをねらいとする。主に、1)福祉サービスの成り立ちから、福祉領域における組織や経営の概念と法制度や、組織と経営の基礎理論について学ぶ。2)福祉サービスの管理運営の具体的な方法、財政運営の現状、組織形態の関係性における現状など、現場での実践事例等も含めて、人事管理、労務管理、会計・財務管理、情報管理などについて理解する。	
		介護施設経営	福祉と経営はこれまで、あまり結び付けて考えられることはなかった。それは「福祉は人のため、経営はお金のため」という印象が強かったからかもしれない。しかし近年は、福祉現場でも経営の知識・技術が求められ、高齢者や障がい者、子育て家庭などを対象とした新しいスタイルの福祉ビジネスも次々と登場している。この背景には、福祉だけあるいは経営だけではもはや解決できない課題があることを人々が認識するようになったことが挙げられる。このようなことから、福祉現場における経営のノウハウを学び、複雑・多様な問題の解決に取り組むことができる技能を身につける。	
専門	マネジ	医療経済学	医療施設の経営に必要な経済学的知見の基本について、医療経営の特性を踏まえて講義する。医療経済に活用される経済理論の主となるマクロ経済学のうち代表的な理論を取り上げ、一般事業会社における経営事例とも照らし合わせ、ケースメソッドによってその利点や欠点、医療経営への適用可能性について検討する。	

教育科目	メント理論	医療流通システム論	医療福祉マネジメントの中でマネジメント分野の諸課題を理解する為に、医療・福祉・介護分野に応用できる商学・流通システム論の基礎理論の中で特に重要な基礎理論な視点を中心に取り上げ解説する。医療業界の特異な流通慣行及び商取引形態について現状に即して解説し、医療・福祉・介護施設やこれらに関連する企業活動の現状を説明し当該理論との関連を修得させる。具体的事例では、医薬品と医療機器の流通を取り上げ、医療機関で導入されているSPD(Supply Processing Distribution)システムによる医療材料の物品管理の方法とその活用を修得させる。授業では基礎的理論を理解させるため、講義にて核心的視点や解析の方法論を説明し、実践的事例を題材にケーススタディを実施し、こののちアクティブ･ラーニングが可能なように自らの解決策を構築できるよう指導する。	
		医療マーケティング	医療福祉マネジメントの中でマネジメント分野の諸課題を理解する為に、医療・福祉・介護分野に応用できるマーケティングの基礎理論の中で特に重要な基礎理論の視点を中心に取り上げ解説する。具体的には医療機関のブランディングの構築の方法とその活用、医療機関の広報戦略の実際、経営手法を活用し、インターナルマーケティグの実践による医療経営改革の実践、地域医療連携におけるリレーションシップマーケティングの実際などを中心に取り上げケーススタディを中心に課題の解決手法を修得させる。また市場調査論の方法を利用し調査票調査を設計・入力・解析を実習形式で実施する。授業では、実践的事例を題材にケーススタディを実施し、こののちアクティブ･ラーニングが可能なように自らの解決策を構築できるよう指導する。	
		原価計算	原価計算に関連した基本的な用語および概念を簡潔に説明できること、さらに製品原価の計算のための一連の手続きである費目別原価計算、部門別原価計算、製品別原価計算を理解し、基本的な計算問題を解けるようにする。さらに、原価計算システムが経営管理目的に有用な情報を提供できることを理解することを目標とする。	
		会計学Ⅱ	「会計学入門」を入門編、「会計学Ⅰ」を基礎編、「会計学Ⅱ」を応用編と位置づけているため、あわせて履修することを推奨する。①簿記の技術と会計学における基礎的な語彙を用いて、経済活動をどのように会計的に表現しうるかを考察し、適切な財務諸表を作成する能力をつける、②財務諸表分析の技法とファイナンスの知識を用いて、企業が公表する財務諸表と各種IR情報を利用しながら、企業活動の実態を推論する能力をつける。	
		監査論	監査論の学習は、監査を主たる業務とする公認会計士になる者はもちろんであるが、将来企業などの財務経理部門担当者として会計監査や内部統制に関わる者にとっても必須である。前半は公認会計士監査を学習し、法定監査や外部監査と呼ばれる監査を行う側の視点より学修する。後半においては監査がどのように他の制度と結びついているのかといった点や、企業が自らを監査するために行う内部監査を通じて被監査会社の視点からの学修を行う。	
		医療経営戦略	医療経営シミュレーションゲーム【医療経営MX】を使用する2日間の集中講義にて、これまでに学んだ各科目の知識を活用して医療機関経営を体験する。1) 経営者として“ヒト・モノ・カネ・情報”への投資の意思決定を、これまで学んだ知識を活かし実践する。2) B/S、P/Lを作成、次期の計画立案に使用することで、財務諸表を読み解く能力を獲得する。3) 自院/競合の状況の分析により執るべき戦略を立案し実践する。4) 会計情報と戦略的な分析結果を使い、経営計画(予算・投資計画)を考える能力を獲得する。	

		組織心理学	組織は、人の集まりであり、人と人との関係から発生する諸問題への対応が常に課題となる。特に医療組織は、チームによる実践を基盤とする人間関係の相互作用に大きく影響される性質を持つため、医療福祉職を目指す者にとって、これらに関する理解は必須である。組織心理学では、組織内での人間関係によって生じる心理学的、行動学的特性について学び、組織のありかたとそれを取り巻く制度、しくみ、連携の様態やその運営について、関連する理論を提示し、身近な事例と対比させながら理解を促す。	
		経営管理論	医療施設経営の認識の基盤となる企業経営そのものに対する関心を高め、所属する組織とかかわる上で必要不可欠な知識を身につけ、経営管理の概念を理解する。基本的なマネジメント理論、組織論、財務管理、目標管理、サービス・マネジメント等を概説し、それらを統合した企業のマネジメントについて学ぶ。科目の後半ではケースメソッドを取り入れ、企業経営活動を分析し、経営管理上の課題を探求し、理論と対比させながら経営管理の理解を促すディスカッションを中心とした授業を行う。	
		人的資源管理論	医療機関や社会福祉施設において、対象者へ直接サービスを提供する専門人材は重要な資源であり、それらのマネジメントはサービス品質および顧客満足にかかわる経営上の重要な課題である。この授業では、組織における人材の育成およびマネジメントに関する役割や機能を理解するため、人的資源管理における諸理論とその応用、効果について学ぶ。	
		企業法務	医療法人であれ営利法人であれ法人(企業)の活動は多くの法令の制約を受けている。そのため、企業がその社会的責任を果たしつつ効率的に企業活動を行うためには、法的知識を修得し法令遵守に努めて、あり得る法的リスクに対応することが重要となる。本授業では企業活動において対内関係(雇用関係等)で生じ得る法律問題および対外関係で生じ得る法律問題の両面を学ぶことを通して、効率的かつ法令遵守重視の企業活動に貢献する能力を受講生が身につけることを目指す。	
	医療管理と実務	医療管理総論	医療の成り立ちとそれに関連する法規、制度、政策などを理解し、社会の中での医療の位置づけや役割、機能を踏まえ、医療事業におけるマネジメントの意義や課題について考える。一般的な経営管理論から医療業のマネジメントに関連する経営理論を用いて、医療組織の提供するサービス財の価値と、その連鎖の中でマネジメントの役割についての検討を行い、医療経営の視点で期待されるマネジメントのあり方についてイメージがもてるよう促す。	
		医療管理各論Ⅰ	マネジメントの立場から、ひろく病院経営を理解するため、病院の経営管理、医療の質管理、医療安全管理の基本を学ぶ。病院の規模や特性により異なる管理上必須な制度の理解や法令の遵守、対人サービス業としての倫理観に基づく患者中心の病院管理の考え方、具体的な管理手法について、事例を通じて学ぶ。経営管理論、品質管理論、医療安全管理学などより専門的な学習に先んじて履修することで、病院組織の管理全般についての理解を促進する。	
		医療管理各論Ⅱ	医療事務職に必須の知識である診療報酬制度、診断群分類(DPC)について理解し、実践に活かせるよう、それらに関連する規定を遵守した業務遂行のための思考・判断の基盤を築く。また、これら取り扱うデータに関連した病院経営の質的な要件および、そのリスクに対応するため、医療評価指標や経営管理指標の取り扱いに関する基本的な知識、手法を獲得する。	

		医療管理各論Ⅲ	実習では、医療機関において実際に取り扱う医療情報の種類や情報の用途、取扱い上の留意点など、専門職としての業務遂行の実際を体験することで、学内で修得できた知見の確認と深化につなげる。組織内の職種連携や、サービス管理、病院管理の実際を知ることで、医療専門職として、またそれらをマネジメントする上での調整業務についての関心を持ち、学んだ諸理論の統合をはかる。また、これら実習は、担当教員の指導のもと学生自ら実習計画を立案することとし、タイムマネジメントを含む社会人基礎力の涵養にもつなげる。	共同
		医療関連法規	医療機関は多くの法律の制約を受けている。医療技術に関する実務は医師の担当であるが、諸制度や施設基準等に関する医療関連法規についてはとりわけ事務系の医療従事者が最もよく理解していなければならない。本授業では、事務系の医療従事者に関連の深い法規について具体的な条文の意味内容を中心に学び、医療関連法規に対する理解を促す。その際には、条文を漫然と読むだけではなく、その趣旨および目的を考えることで各条文の背後にある思想を読み取り、患者の健康や生命に関わる職を目指す者として備えるべき責任感を受講生に持たせることを目指す。	
		医療安全・臨床倫理	医療安全の体系と役割、機能について理解する。医療は人々の生命や健康を守ることを目的としており、安全であることは必須の前提である。しかしながら人は間違いを犯すものであり、人が行う行為によって成り立つ医療サービス場面においては、いかにそれを最小限に食い止めるかが重要である。この授業では、医療安全の原理と手法を学び、その中で守るべき対象者の人権について臨床倫理の視点から解説し、想定される課題に向き合うことのできる見識と態度を養う。	
		秘書学	多用な医療専門職で構成される病院組織のチームの中で、事務職に期待される役割を理解し、医療秘書や医師集団である医局の秘書、および役職者の秘書業務の遂行において必要とされる能力を修得させる。秘書業務の概要を理解するとともに、業務を遂行する上で必要となる接遇マナーや言葉づかい、所作などを体得し、質の高い仕事の進め方について常に考え行動できる能力を養う。	
		文書作成技術	病院組織における多職種チームの連携や、地域医療連携など、医療機関の内外の連携・連絡において必要となる診療情報をはじめとする文書による情報提供の際に必要な技能を修得させる。医療秘書、医師事務作業補助者などの事務系専門職は、とくに文書作成実務に従事することが多く、また医療経営上のあらゆる場面においても一般的なビジネス文書の作成の機会は業務の多くを占めるため、多様な形態での情報提供にふさわしい文書作成技能について、講義と演習によって修得させる。	
		診療報酬請求事務Ⅰ	診療報酬請求事務職は、医療事務として重要不可欠な技能であり、病院のいわば売上となる診療報酬を得るための、医療の知識に加えた独自の請求技能が不可欠な医療専門職である。本講は、診療報酬請求事務作業において病院外来診療における請求事務技能を修得するための講義および演習を行う。病院外来のみならずクリニックなど無床の医療施設での就業にも活用できるスキルであり、諸制度との関連において多用な事例を用いて授業を行う。	

		診療報酬請求事務Ⅱ	病院等の入院施設において、入院中の患者に提供するすべての医療サービスを診療報酬点数に換算して請求し、保険者と患者本人からの対価を得るための事務処理の一連を学ぶ。入院患者個々の療養生活に関連する事項を含む入院診療に関連する院内業務に関する知識の修得とそれらを理解した上での適正な報酬請求実務について事例を用いた講義と演習から学ぶ。	
	介護福祉	発達と老化の理解I	認知症の理解Ⅰの内容理解を基に、認知症の人を中心に据えながら、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解する。認知症の人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症のケアの実践や、認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や多職種連携・協働による支援による基礎的な知識を理解する。また、認知症の人を支える家族の課題についても理解し、レスパイトケアの必要性とともに、家族の介護力に応じた支援についても理解できることを目指す。	
		発達と老化の理解Ⅱ	介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と発達の観点から人の人生について理解することを目指す。ライフサイクル各期（乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達を踏まえ、各段階に応じた生活の在り方を理解する。以下の内容を含むように配意する。①人間の成長と発達の基礎的知識、②人間の発達と発達課題、③発達段階別に見た特徴的な疾病や障害、④老年期の基礎的理解、について学ぶ。	
		こころとからだのしくみⅠ	ケアに必要なエビデンスとなる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解し、対象者の生活を支援するという観点から身体的・心理的・社会的側面を総合的に理解するための知識を獲得する。ケアを実際に提供する際に必要な観察力、判断の根拠となる人間のこころとからだのしくみについての知識を獲得し、生活支援技術に応用するための基礎とする。	
		こころとからだのしくみⅡ	「こころとからだのしくみⅠ」を基に、利用者の機能低下や障害が生活行為に及ぼす影響について理解しケアの工夫ができることを目指す。また、人生の最終段階の心身の変化が及ぼす影響や生活支援を行うために必要な基礎的な知識を理解する。グループワークは、事例性と根拠を重視した以下の視点をもって行う。①個別の特性を理解した上で、本人が自分で行える生活行為の範囲を理解する、②自立と自律の範囲を活用できるようにする。	
		介護の基本Ⅰ	介護福祉の基本である理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援のもと、安全な介護実践の基礎となる知識を理論的に学ぶ。複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く社会的な課題として捉え、介護福祉士の専門性と倫理性を理解した上での尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解できることを目指す。	

		介護の基本Ⅱ	「介護の基本Ⅰ」で学んだ介護福祉の基本理念や介護福祉士の役割と機能および専門性や倫理性を踏まえ、ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から、個々の状況に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解する。また、介護を必要とする人の生活の個別性に対応するため、生活の多様性や社会との関わりを理解するための学修とする。さらに、介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、介護サービスや地域連携の在り方を考え、フォーマルサービス・インフォーマルサービスの活用に向けても理解できることを目指す。	
		介護の基本Ⅲ	「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」で学んだ内容を基に、他職種連携による介護の実践をするために、保健・医療・介護・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解する。また、介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎となる知識や事故への対応を理解する。介護従事者が心身ともに健康に、介護を実践できるように自身の健康管理や労使環境の法定管理についても理解することを目指す。	
		介護過程Ⅰ	介護過程の意義・目的及び介護過程の展開の一連のプロセスに関する基礎的理解力を養う。以下の内容に配意する。本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、エビデンスに基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を理解する。	
		介護過程Ⅱ	「介護過程Ⅰ」を基に、介護過程とチームアプローチについて理解する。介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別計画の関連性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解する力を養う。介護実習に向けて、個別の課題解決にむけて、必要な知識の獲得を目指す。	
		介護過程Ⅲ	個別の事例を通じて、対象者の理解、本人の特性を理解し、本人の望む生活の実現に向けて、個別のストロングを引き出し、課題解決の手法を展開する。以下の内容を配意する。①施設生活と在宅の違い・サービスの違い、②本人の尊厳の維持と介護職の倫理性、③本人への自立支援を常に意識する等。また、介護実習に向けて、確実な知識の獲得を目指し、介護研究に繋げる。	
		生活支援技術ⅠA	ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境、移動・移乗、身じたく、食事等の意義と活用について基礎的な知識・技術を獲得する。単に介助の方法を学ぶだけではなく、その人の生活様式や個別性に着目し、その人を取り巻く環境(人・物)や周囲との相互関係を考えながら学修する。また、なぜそのように介助するのか、なぜその方法なのか等、根拠を理解した上で実践できるようになることを目指す。	
		生活支援技術ⅠB	ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた入浴・清潔保持、排泄、家事、休息・睡眠、人生の最終段階、福祉用具等の意義と活用について基礎的な知識・技術を獲得する。単に介助の方法を学ぶだけではなく、その人の生活様式や個別性に着目し、その人を取り巻く環境(人・物)や周囲との相互関係を考えながら学修する。また、なぜそのように介助するのか、なぜその方法なのか等、根拠を理解した上で実践できるようになることを目指す。	

生活支援技術ⅡA	生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術の獲得を目指す。住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解する内容を目指す。	
生活支援技術ⅡB	日常生活を維持するために必要な休息や睡眠の重要性を理解し、安眠できる環境を整える支援について理解する。また、不眠が日常生生活に及ぼす影響を理解した上での支援も学修する。	
生活支援技術ⅢA	人生の最終段階にある人と家族をケアするために、心身状況や心理状態の変化を把握しながら本人のニーズに添うことはもとより、終末期の経過にあった支援や、他専門職とのチームケアの実践についても理解する。	
生活支援技術ⅢB	新たなサービスとして介護ロボットを含め、福祉用具や福祉機器を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具や福祉機器を選択、活用する知識・技術を獲得する。また、これまでの自らの生活支援技術の習得状況を確認しながら、更なる向上を目指す。	
介護総合演習ⅠA	介護実践に必要な知識と技術の統合および介護観の形成ならびに専門職としての思考・態度を醸成するための学修とする。具体的には、①介護総合演習の意義(実習前・中・後にわたる知識・技術・倫理観の統合)、②介護実習の枠組みと全体像の理解(介護実習Ⅰ区分の理解)、③実習に関する基礎知識(実習施設・事業の理解、実習施設・事業所がある地域の理解、社会資源との関わり)、④実習準備(実習目標、実習計画)⑤実習記録の意義、作成方法、⑥個人情報の取り扱い・倫理的配慮、⑦実習生の健康管理、⑧実習スーパービジョン、⑨実習の振り返りについて学修する。	共同
介護総合演習ⅠB	介護実践に必要な知識と技術の統合および介護観の形成ならびに専門職としての思考・態度を醸成するための学習とする。介護総合演習ⅠA(基礎)および介護実習Ⅰ(基礎)を振り返り、介護の知識や技術と実践を結びつけて進化させるとともに、介護実習Ⅰ(応用)に向けた自己の課題を明確にする学修である。具体的には、①介護実習ⅠA(基礎)の総括、②介護総合演習の意義(実習前・中・後にわたる知識・技術・倫理観の統合)、③実習に関する基礎知識(実習施設・事業の理解、実習施設・事業所がある地域の理解、社会資源との関わり)、④実習準備(実習目標、実習計画)、⑤実習記録の意義、作成方法、⑥個人情報の取り扱い・倫理的配慮、⑦実習生の健康管理、⑧実習スーパービジョン、⑨実習の振り返りについて学修する。	共同
介護総合演習ⅡA	介護実践に必要な知識と技術の統合および介護観の形成ならびに専門職としての思考・態度を醸成するための学修とする。具体的には、①介護総合演習の意義(実習前・中・後にわたる知識・技術・倫理観の統合)、②介護実習の枠組みと全体像の理解(介護実習Ⅱ区分の理解)、③実習に関する基礎知識(実習施設・事業の理解、実習施設・事業所がある地域の理解、社会資源との関わり)、④実習準備(実習目標、実習計画)⑤実習記録の意義、作成方法、⑥介護過程の理解、⑦個人情報の取り扱い・倫理的配慮、⑧実習生の健康管理、⑨実習スーパービジョン、⑩実習の振り返りについて学修する。	共同

		介護総合演習ⅡB	介護実践に必要な知識と技術の統合および介護観の形成ならびに専門職としての思考・態度を醸成するための学修とする。介護総合演習ⅡA(基礎)および介護実習Ⅱ(基礎)を振り返り、介護の知識や技術と実践を結びつけて進化させるとともに、介護実習Ⅱ(応用)に向けた自己の課題を明確にする学修である。さらに室の高い介護実践とその根拠(エビデンス)の構築につなげる方法について理解できるようにする。具体的には、①介護実習ⅡA(基礎)の総括、②介護総合演習の意義(実習前・中・後にわたる知識・技術・倫理観の統合)、③実習に関する基礎知識(実習施設・事業の理解、実習施設・事業所がある地域の理解、社会資源との関わり)、④実習準備(実習目標、実習計画)、⑤実習記録の意義、作成方法、⑥介護過程の理解、⑦個人情報の取り扱い・倫理的配慮、⑧実習生の健康管理、⑨実習スーパビジョン、⑩実習の振り返りについて学修する。	共同
		介護実習Ⅰ型基礎	人間関係を形成しながら、慣れ親しんだ伝統や文化のある地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が、サービスの利用に際しても、その人らしさを維持しながら生活する状況について理解する。また、その生活を継続させるためには何が必要かという個別ケアの実践を学ぶ。実習施設の実際を体験し、その機能や基本的ケアを理解する。以下の場所での実習を実施する。(ディサービス・ディケア)	共同
		介護実習Ⅰ型応用	人間関係を形成しながら、慣れ親しんだ伝統や文化のある地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が、サービスの利用に際しても、その人らしさを維持しながら生活する状況について理解する。また、その生活を継続させるためには何が必要かという個別ケアの実践を学ぶ。実習施設の実際を体験し、その機能や基本的ケアを理解する。以下の場所での実習を実施する。(グループホーム・小規模多機能型居宅介護・訪問介護)	共同
		介護実習Ⅱ型基礎	個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者のニーズに沿って利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価、計画の修正といった一連の介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を身につける。下の場所での実習を実施する。(高齢者施設)	共同
		介護実習Ⅱ型応用	介護実践のための基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じた介護技術を適切に使う必要があることを学修する。更に、実際に実習施設のカンファレンスやサービス担当者会議などに参加し、介護をする上での必要な他の専門職の役割を学ぶことで、チームケアの一員としての介護福祉士の役割についても理解する。以下の場所で実施する。(高齢者施設・身体障害者施設・知的障害者施設のいずれか)	共同
		医療的ケアⅠ	医療的ケアが必要な人の安全な生活を支える視点から、医療職との連携の元で医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な・知識・技術を獲得できることを目指す。以下の内容に配意する。医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた、①個人の尊厳と自立、②医療的エアの倫理上の留意点、③医療的ケアを実施するための感染予防、④安全管理体制等。	
		医療的ケアⅡ	喀痰吸引・経管栄養について、エビデンスに基づく手技が実施できるよう、基礎的な知識を基に、安全に適切に実施できる確実な手技の獲得を目指す。また、一定の評価基準内容を理解し、介護職が実施できる範囲を遵守して実施することを徹底する。	

		医療的ケアⅢ	障害や慢性疾患を抱え生活する人の介護ニーズ・医療ニーズが複雑化・多様化・高度化されてきている中で、そのニースに対応していくためには、介護職ができる医療的行為が求められている。安全・安楽を意識しながら介護職が行える範囲、してはいけない行為の範囲について学修する。また、介護職が行える行為は限定されており、その範囲を遵守しながら医療職との連携を図るとともに、確実に実施できるスキルを修得することを目指す。	
		認知症ケア論	（概要）社会の中には多くの認知症を抱える人が存在している。認知症という病気の症状がその人であるかのような誤解の中で誤った対応が本人の混乱を招くことがある。人生の歩みの中で築かれたその人の暮らしを守り、認知症高齢者の生活を支援するために、認知症の病態を理解した上でその人らしさを追求できる対応について、事例を通して「疾病性」と「事例性（状況性）」を学修する。また、認知症の方が抱える生活の困難さを家族・地域とともに支える支援、研究として追求していける支援を目指す。 （オムニバス方式/全15回） （6　照井レナ/8回） 前半1～6回、後半12～13回を担当、認知症イノベーション、認知症のファクトフルネス、認知症の分類、認知症の病態を理解した上で、認知症の方や認知症の方を支える家族、支援者の方のゲストスピーチを通して、認知症の方の世界観や不安、生活を支援する上での様々な困難さを知る。状況に応じた支援の在り方を追求しながら新たな支援方法を探る。その内容をプレゼンテーションしていく。 （10　佐藤　恵/7回） 前半7～11回、後半14～15回を担当、毎回事例を通して、客観的情報から支援方法を学修する。ICFの生活モデル、環境（人や生活の場）との関係、倫理的ジレンマ、看取り、地域との関係の在り方等、ワールドカフェ形式からその人らしさを追求する支援方法を探る。その内容をプレゼンテーションしていく。	オムニバス方式
		介護報酬請求事務	介護保険法、障害者支援法における制度の理解と保険財政について理解した上で、社会福祉施設や居宅におけるサービスの目的やサービスの種類を知る。また、介護支援専門員の役割や責任、サービス内容が利用者の生活に大きく影響することも学修する。フォーマルサービス、インフォーマルサービスを含めた利用者の要介護度に応じてのサービスの在り方、サービスにかかる保険点数と介護報酬請求の仕方、更には将来の社会福祉施設経営や運営に係る必要な経費や軽費削減にかかわる効率的運営管理についても学修する。	
		事業構想論	病院や介護施設などの医療サービス産業の分野では、経営の持続可能性が求められる。本講義の前半では、医療サービス産業の経営理念や方針の設定、施設規模、経営組織、経営収支の概要を事例を通じて解説する。後半では、医療サービス産業を事業化することを想定し、経営収支項目ごとの経営指標を用いて、事業内容、施設規模、組織体制、収支計画シミュレーションなどの経営計画を構想する。	

	地域マネジメント	持続可能社会と地域医療福祉経営	（概要）持続可能な社会は、営利企業部門、公共サービス部門及びNPOなどの非営利組織で様々な活動を担う市民セクター部門で成り立つこと、これらの部門が地域社会で連携し問題解決に貢献することを理解する。前半は、持続可能な社会は、高齢化が進む地域社会の医療や介護などの公益志向を重視し、様々な部門で活動する人々と連帯して生活する共生志向を有することの大切さを説明する。後半は、ケーススタディ（CS）を多用し、問題解決型学習（PBL）を実施し、ケースでの課題の抽出と解決策を議論させることで、主体性を育成させる。 （オムニバス方式全15回） （1　加藤敏文/7回） 「①持続可能な社会とは何か、②持続可能な地域社会像、③連携の関係づくりと地域社会、④持続可能な地域社会の形成①、⑤持続可能な地域社会の形成②、⑭先進事例研究：公益志向の地域社会、⑮先進事例研究：共生志向の地域社会」を担当する。 （5　伊藤　一/8回） 「⑥持続可能な地域社会の形成③、⑦地域医療経営の広報戦略、⑧医療の地域連携を基礎とした広報戦略事例研究、⑨CSRを活用した病院経営、⑩地域医療機関のケアミックス型施設の経営戦略、⑪医療BSC経営による経営戦略の実現、⑫地域医療経営におけるBSC経営の事例、⑬ABC(アクティビティーベースドコスティング)を活用した価格設定の事例」を担当する。	オムニバス方式
		サービス産業論	サービス産業は取り扱うサービスの内容などから、その特異性、固有性などは多様である。本講義の前半では、我が国経済におけるサービス産業及び医療サービス産業の地位、事業経営の特性、サービスの特性などの基本的な考え方、その考え方を基礎にサービス・マーケティングの枠組みを学ぶ。後半では、医療サービス産業は病院や介護施設などより構成されており、近年特に最適な医療サービスの提供が求められ、医療サービス品質の高め方や管理の方法、そうした取り組みを実践する先進事例を学ぶ。	
		地域連携実践	本科目は企業実習（インターンシップ）科目である。医療福祉サービス活動を実習を通じ実際の場面で体得させ、具体的にその仕組みや内容、課題などを理解させることを目的に配置する。具体的には、医療福祉サービス活動を事務部門、販売・購買部門などで幅広く体験させ、その仕組み・人・物・金・情報の流れを全体的に把握する。また、医療福祉サービス活動とそれを取り巻く環境諸条件などの関連・影響を総合的・システム的に把握する。加えて、経営理念・戦略、経営者の指導力、情報処理システムなどの重要性を体験を通し認識する。	共同
		ソーシャル・ビジネス	ソーシャル・ビジネス（以下SB)とは、社会的課題を解決するために取り組まれている事業と定義され、めまぐるしい時代の変化と社会からのニーズと共に常に変化し続けている。医療や福祉業界をはじめ環境問題や貧困による格差問題、子育て支援や障碍者雇用など活動分野は多岐にわたる。この授業では幅広いSBの活動を網羅し、SBの基礎的な知識を学び、自ら社会課題の発見から問題解決までを一貫して提案できるようになることを目的とする。	

	総合科目	基礎演習	毎週1回、大学教育の基礎的な学び方を知る。文献や資料の調べ方、レポートの作成方法、プレゼンテーション等の基礎的な学修手法を、少人数の演習形式で学んでいく。特に、2年次から増していく専門的な学修に備えるために、学びの手法を獲得していく。また、フィールドワークセンターと連携をして、社会福祉施設などでの体験学習を行い、2年次以降の学修に向けた意識向上を図っていく。	共同
		専門演習Ⅰ	専門演習Ⅰでは、学生各々の目指す進路に向けてこれまでの学びを統合し、自身の未来のテーマを見出す取り組みを支援する。週1回、少人数によるゼミナール授業を行う。4年次における専門演習Ⅱ(卒業レポート作成)に向けて、テーマをより明確化し、研究の位置づけを明らかにするために文献を読み、研究主題を明確にする。客観的な手法で主題を解析するためにデータ収集し統計手法を活用したり、事例の特徴を明確にするためフィールドワークセンターを活用しながらフィールド調査などを実施する。	共同
		専門演習Ⅱ	専門演習Ⅱでは、専門演習Ⅰから継続し、各々の目指す進路・資格に向けて大学での学びを統合し、学生個々が取り組む研究、調査のプロセスを支援する。原則毎週1回、少人数によるゼミナール授業を行う。専門演習Ⅰで行った研究内容について精査し、自身の関心をより明確化する。研究の社会的意義を明らかにし、より正確で説得力のあるデータ収集のために文献調査、フィールド調査や統計処理等を行ない、卒業レポートとしてまとめる。	共同
		卒業研究	この科目では、各自の研究テーマに基づき、卒業論文を作成する。4年間の学修成果を形式知に昇華させることを目的とする。そのために、専門演習Ⅰで培ってきた基礎的研究成果を元に、研究計画作成、データ取得、議論、などを行い、研究内容を論文としてまとめ上げる。前期末に研究内容の途中経過、学年末に作成した論文の発表を行う。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（総合福祉学部ソーシャルワーク学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	人間と文化	人間関係とコミュニケーションⅠ	福祉サービスを必要としている人への支援は人間関係の形成が基盤となる。その形成に必要なコミュニケーションについて基礎的な知識を修得する授業である。対人支援は、ご本人およびご家族、多職種が連携しチームで行うという理解が不可欠であることから、コミュニケーションの基礎に加え、チームマネジメントに関する知識も理解し、円滑な対人支援が行えるための能力を養う学修とする。具体的には、①福祉理念を理解したうえでの倫理観、権利擁護の視点、②人間関係形成に必要となる自己理解、他者理解を基盤にした心理学的支援、③対人関係におけるコミュニケーションの意義、④コミュニケーション技法に関する知識を学修する。	
		人間関係とコミュニケーションⅡ	福祉サービスを必要としている人への支援は人間関係の形成が基盤となる。その形成に必要なコミュニケーションについて、「人間関係とコミュニケーションⅠ」での学びをさらに積み上げていくことを目指す。対人支援は、ご本人およびご家族、多職種が連携しチームで行うという理解が不可欠であることから、コミュニケーションの基礎に加え、チームマネジメントに関する知識も理解し、円滑な対人支援が行えるための能力を養う学修とする。具体的には①組織内のコミュニケーションに関する知識、②介護サービスの特性とマネジメントの重要性、③介護サービスを行う組織とその運営管理、④チーム運営の基本、⑤人材育成と人材管理に関する知識を学修する。	
		人間の尊厳と自立	人間の理解を基礎として尊厳の保持と自立について理解し、医療福祉専門職に求められる倫理的課題への対応能力の基礎を養うことを目指す。殊に、以下の内容を含むように配意する。①多様性の尊重に対する基本的理解を養う。②福祉理念の歴史を学ぶことを通し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う。また、利用者本位の観点から自立の概念、自立生活の理解を通しその生活を支える必要性を理解する。	
		倫理学	「倫理」とは人が生きていくために価値や規範としての「ありかた」を問い続ける学問である。そして医療はそのなかで「あるべき」姿を追いかけることの困難さを実感し続ける現場である。本科目では「命の倫理」が生まれた歴史的背景を基盤としつつ、前半では医療人としての倫理観を身につけ育てていくのに必要とされる視点や方法について、後半では臨床で必要とされる基本的概念と日常感覚との接点を中心に学修する。	
		文化人類学	「地球市民の基礎教養」といわれる文化人類学は、考現学の一種です。今・ここにあるモノやヒト、ことがらが、文化化された事象を扱う学問です。その目的は異文化理解力を身につけ、他者を深く理解するとともに、自らの文化を客観的にとらえる訓練をします。具体的な事例を、聞き取り調査と参与観察による現地のフィールドワークで収集し、データ化するという特徴があるため、理論の講義はあまりありません。文化人類学は多くの下位分類がありますが、特に介護系のキャリアを目指す学生達には是非一度は聞いてもらいたい医療・介護人類学を中心に講義する。	

		教育学	代表的な教育思想とその歴史的背景に焦点を当て、教育は人間が生きる上でどういう意味を持っているのか、また社会の中でどのような役割を果たしているのかという二つの点から 考察する。教育の本質を人間の発達と学校教育のあり方（内容と方法）、教育を取り囲む社会、法制度との関連で明らかにする。新学習指導要領に伴う大きな変化をふまえて、題材は「教育の課程と方法」を中心にして講義する。	
		文学	主に日本文学に限定し、今なお影響力を持ち、我々の行く末を照らしてくれている文学作品を精読、分析する。さらに、現代には、ボブ・ディランの歌詞がノーベル文学賞を取ったり、Twitterのつぶやきが小説になったりと時代とともに文学の形態は変わってきており、そうした時代の変化についても学修する。	
		北海道史	本講義は、北海道の近現代史を毎回別の歴史的事項を通して理解します。これまで学んできた通史としての歴史ではなく、曾祖父母、あるいは祖父母世代が経験したかもしれない風景に端を発し、その今に至るまでの経緯を学びます。受講する学生は興味を持った歴史的事項を自らのテーマとし、その課題に沿った情報の収集や、そのために教員が作成した副読冊子をガイドブックとして視察、見学などの自学自習に取り組む。	
		心理学と心理的支援	社会福祉領域において必要とされる基本的な心理学理論と心理学的援助技法について学ぶ。具体的には、「心理学の視点」「人の心の基本的な仕組みと機能」「人の心の発達過程」「日常生活と心の健康」「心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本」「ソーシャルワークと心理学」を理解する。	
		発達心理学	本講義では、乳幼児期から老年期までの発達の過程を取り扱う。人の発達の概念と発達を形成する諸要素および影響要因、また、ピアジェ、フロイト、エリクソンなどの発達理論を学修し、各発達段階における特徴的な行動や発達課題について学び、人の発達の一般的特徴について理解する。また、パーソナリティ形成への影響、行動との関連についての学修から、各個人の発達の特徴を理解する。これらを通し、他者の発達を見通す力をつけ、さらに、各発達段階に特徴的な発達の危機を理解し、そこからの脱却についても考え、深める。	
		ボランティア活動	21世紀の地域共生社会の構築に向けた課題の一つは、ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョンを理念とした地域福祉の推進である。この地域福祉の推進の主体は、地域住民、社会福祉を目的とする事業を経営する者、そしてボランティアやNPOなど社会福祉に関する活動を行う者である。そして地域福祉は住民参加を不可欠とする。このボランティア活動は今日の住民参加の一形態である。ついては、21世紀の私たちの生活のしづらさを支援する地域福祉の推進に向けて、社会福祉の基本法である社会福祉法の趣旨に依拠しつつ、実践論的な視点からボランティア活動を検討し実際活動に結びつけられることをねらいとする。	

人間と社会	法学入門	法は私たちの社会生活に深く関わっています。たとえば、大学生が、大学へ通学する際に公共交通機関を利用し（運送契約）、店で弁当を買い（売買契約）、大学の教室で講義を受ける（在学契約）だけでも複数の法律関係（ここでは契約関係）が存在している。もはや私たちは生活する上で法と無関係ではいられず、それゆえ、社会に生きる者として法を学ぶことが必要不可欠であり、生活と関連させながら法を学修する。	
	政治学入門	どんな分野においても、世の中の仕組みを作っていく政治と無関心ではいられない。政治とは利害調整の仕組みともいえる。政治学の基礎を学ぶことで、そうした仕組みを理解し、世の中の諸問題を考察し、分析する力を養うことを目指す。特に、医療福祉において本人支援に必要な自由主義や民主主義の概念の知識修得をめざす。	
	経済学入門	経済学を初めて学ぶ学生を対象とし、平易にその内容を紹介する。基礎的な知識の理解となるよう、経済学の学修に必須となる用語、概念、理論について学ぶ。とくに、経済理論の一分野であるミクロ経済学を取り上げ、市場、生産、消費、競争など主要な要件に関連する知識を教授し、企業経営と関連させ理解を促す。	
	経営学入門	経営学の入門科目として、一般的な経営理論を学び、医療経営に必要となる基本的なマネジメント概念の整理を行う。「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」等から構成される事業のゴーイング・コンサーン（存続・発展）に対する思考の整理ができるよう、代表的な経営事例を用いて、マネジメントの概要について理解させる。	
	行政法	行政法は、行政と私人の間や行政と行政の間を規律する法である。ところで、上下水道、道路、学校、などなど、私たちは行政サービスに依存して生活している。また、鉄道やバスなど民間企業による公共的サービスも、料金決定その他について、行政が大きく介入して、提供されている。また、社会保障・社会福祉の制度も、行政自体によっては行政が大幅にかかわって運用されている。つまり、行政法は私たちの日常生活に深く関わる法なのである。本授業では、行政法が私たちの生活や企業の活動においていかなる関わりを有しているかを具体的に明らかにしていく。その上で、その関わりで生じる法的問題に行政法がどのように対処しているかを、裁判例や学説を通して学ぶ。	
	マーケティング入門	（概要）医療福祉マネジメントの中でマネジメント分野の諸課題を理解する為、マーケティングの基本理論を中心に解説する。 （オムニバス方式　全15回） （13　加藤敏文/8回） マーケティングの定義や諸概念、歴史的発展の経緯、戦略と管理の考え方、マーケティング・ミックスの4対応のうち、価格と製品への対応を解説する。 （17　伊藤　一/7回） 後半は流通とコミュニケーション対応や消費者行動、サービスや関係性やソーシャルマーケティングなどを解説する。最終的にはケーススタディーによりマーケティング事象を分析できる能力を高め、グループで討論し、成果の相互評価を実施して内容の理解を深める。	オムニバス方式

		統計学	統計学は根拠に基づく医療(Evidence based medicine)を担う基盤科目である。データの集計・解析を通して、変数間の関連を整理し因果関係を推論する力は、保健医療福祉専門職にとって必須の資質となる。本講義は、1) 調査、臨床、研究によって得られたデータを集計し要約する（記述統計学）、2) 検定統計量を算出しそれをもとに関連を吟味する（推測統計学）、という統計学の主要概念を学ぶことを目的としている。代表値、平均・分散、標準偏差、信頼区間、有意水準などの指標に習熟し、仮説検定の判定手順についても理解する。統計調査の企画実施における倫理規定の遵守や個人情報の保護についての認識を深める。	
		情報科学	情報科学は根拠に基づく医療（EBM）を推進する上で基礎となる実践科目である。コンピュータに関するソフトウェア、ハードウェアを理解し、情報処理システムに精通することは、保健医療福祉専門職にとって必須の能力である。本講義は、1) インターネットサービスの利用、2) オンライン情報の検索、3) 検索情報の収集と管理、といった広範な情報処理に習熟することに加え、4) セキュリティ保持とモラル遵守の姿勢を身につけることを目的としている。検索サイトやポータルサイトの特徴に応じて、必要な情報を収集し、電子カルテなどにより情報を提供・共有することは、院診連携をはかる上で有用である。現場で実際に活用できる情報処理能力を培うことは重要な課題である。	
		会計学入門	会計は社会を定量的に見る重要なツールである。この授業では会計がどのように社会に役に立ち、重要性を持つか学修する。入門となるためそれぞれの分野には深く踏み込まないが、全体像の把握と社会における役割という点を重視して授業を行う。	
		簿記入門	簿記は、帳簿に記入するためのルールを定めたものであり、「帳簿記入」という言葉からつくられた造語といわれている。会社などの組織は、その活動から生じるいろいろな事柄を整然と記録し、その利害関係者に経営成績や財政状態を明らかにしなければならないが、今日の複式簿記はこれら会計情報を作成する上の手段として欠くことができないものである。この授業では、簿記の基礎と位置づけ、簿記の仕組みと会計的思考の裏付けとなる考え方について学ぶ。	
		社会学と社会システム	人は弱者戦略として群れを作る動物である。ただ群れるだけなら集団ですが、何らかのシンボルのもとに群れる、関係性や秩序が生まれるならそれは社会である。教科書がないと言われてきた社会学は挑戦的でおもしろい学問で、社会全体を丸ごとその考察の対象としている。講義形式の授業とFormsを利用した学習成果の確認によって、広範囲で多様なこの学問の各事項を効果的に学んでいく。	
		家族社会学	家族は長い間、人々にとって最も身近で基礎的な集団として、私たちの生き方を強く規制してきたが、いま大きく揺れ動き、その存在自体が問われるようになってきている。本講義では、変動しつつある家族の現状を理解するとともに、そのような変化をもたらしている要因について理解し、これからの家族のあり方について展望し、考えていくものである。	
	健	生活科学	生活環境のあり方を科学的にとらえ、より良い環境をつくり出す基礎を学ぶ。社会と生活に対する理解を深め、知識や実践を福祉サービスを必要としている人への支援につなげられるようにする。	

	康科学	環境科学	人間の活動で影響を受けた自然環境の変化によって、新たな健康問題が引き起こされている。人間生活における自然環境の意義を理解し、環境破壊と健康障害について学び、これからの環境保全行動について考える。初めに近年の経済発展による環境問題を概観し、大気汚染と健康への影響、水質汚染と健康への影響、地球温暖化と健康への影響、酸性雨と健康への影響、災害による環境破壊、放射能被ばくと健康への影響を学ぶ。これからの社会における環境保全と生物多様性について考える。	
		健康とスポーツⅠ	スポーツを通して身体を動かす楽しさを知る。また、高齢化が進む現代社会における、様々な健康阻害要因について学び、青年期から健康に関心を持つことの重要性を理解する。さらに、身体能力の向上や疲労回復・ストレス発散を目的とした運動・スポーツについても理解 を深め、運動・スポーツのあり方と実践的な指導方法および評価法についても学修する。文化・ ツールとしてのスポーツについて理解し、社会の中でスポーツがどう役立っているかを学ぶ。	
		健康とスポーツⅡ	健康とスポーツⅠで学んだ身体を動かす楽しさをもとに、グループワークを含めながら、子どもから高齢者、障害者、ストレスを抱える現代人が、どのように運動と関わればよいか、より深く学ぶ。さらに、散歩、体力づくり、ストレッチ、柔軟体操、野外活動など、リラクゼーションのあり方についても知見や体験を深め、健康であるために運動とスポーツがどのように関わるべきかを理解する。	
	語学	日本語表現	本科目の目的は、広く社会に通用する基本的な言語表現力を身につけることにある。コース前半では、「文書作成の技術」と題し、大学での学修に不可欠な文書作成技法について学ぶ。社会一般的なルールに加え、作法なども学修の視野に入れる。コース後半では、「日本語力を磨こう」と題し、場面に応じたわかりやすい日本語表現について学ぶ。なお本授業では、グループワークや相互チェックなど演習型の教室内活動を多く取り入れる。	
		英語Ⅰ(基礎)	医療に関する様々なトピックを英文で読み、基礎的な読解力を高める。英文を正確に読むためのスキルを身に付け、論理的に要約し、伝達することを目的とする。社会、心理など様々な視点から問題をとらえ、いろいろな英文を読むことで、単語理解や、語彙力の向上、読解力の養成を目指す。外国の社会や文化、外国人の価値観などを知る機会となり、異文化交流の動機付けとなり、今後の語学学修のモチベーションとなることを期待する。授業の初めには、新聞記事を読み、VOAのニュースやNHK World English Newsなどから、最新のニュースのリスニングを行う。	
		英語Ⅱ(実践基礎)	ロールプレイ、ペアワークなどで場面を想定して英語の修得をめざします。英語について考えること、発音練習、会話によるコミュニケーションが重視されます。英語を話すときに自文化について考え、他文化への理解を深めてもらいたいです。言葉によるコミュニケーションと言葉によらないコミュニケーションの両方に取り組みます。	
		英語Ⅲ（実践応用）	保健医療福祉分野における英文文献を教材として、正確に、論理的・批判的に読解する能力を身に付け、論文の内容を要約できることを目的とする。グループ抄読を通して、英文や論文内容の解釈についてディスカッションすることで、英文文献抄読を主体的に学修するための基礎的能力を育成することを目的とする。	

		中国語	隣国である中国とは、人事交流をはじめとして、経済・文化などすべての面で交流が盛んになっている。医療のグローバル化に向けて、国際的な動向をコミュニケーションをとおして理解することはきわめて重要である。本授業では、中国語の基礎や簡単な会話を学びつつ、現代中国の社会や文化についての理解を図る。異文化理解および外国語学習に意欲をもった履修を強く求めたい。	
		韓国語	隣国である韓国とは、人事交流をはじめとして、経済・文化などすべての面で国家間交流が盛んになっている。医療のグローバル化に向けて、国際的な看護の動向を知り、コミュニケーションをとおして理解することは重要である。そのため、本教科では韓国語の文字、発音など基礎的なことから日常生活で使う簡単な会話と読解能力を育成することを目的とする。また、本講義では韓国語をより上達させるため、コミュニケーションの背景知識になる韓流ドラマ・K-pop・動画などを活かし、韓国の社会や文化などを紹介し、理解を深める。	
専門基礎教育科目	社会福祉の基礎	医療福祉とマネジメント	（概要）少子高齢化と過疎化の進展による医療機関や福祉施設の患者・利用者数の減少に加え、ニーズの多様化や専門職人材の確保の難しさが年々進んでいる。さらに新たに出現した感染症の影響により、医療機関や福祉施設の経営・管理は困難な局面にさらされている。こうした困難な局面に柔軟に対応していくためには、医療や福祉の基礎知識に加え、医療機関や福祉施設の運営・管理に携わる専門多職種との連携、マネジメント能力が必要である。本科目では医療機関や福祉施設の専門職人材の理解と、運営・管理のあり方をふまえたマネジメントについて学修する。 (オムニバス方式全15回) （2　笹岡眞弓/4回） 「①イントロダクション、⑩～⑫医療の専門職理解」を担当する。 （②　鈴木幸雄/4回） 「⑥～⑨社会福祉の専門職理解」を担当する。 （17　伊藤　一/3回） 「⑬～⑮医療福祉とマネジメント理解」を担当する。 （20　平野啓介/4回） 「②～⑤介護のの専門職理解」を担当する。	オムニバス方式
		社会福祉の原理と政策Ⅰ	現代社会ではさまざまな社会変動が起き、それに連動して生活問題や福祉ニーズも多様化・複雑化・複層化が進んでいる。そのなかで、本授業は社会福祉の原理と政策について多角的に考察し、現代社会における福祉問題を解決するための基礎を築くことを目標とする。特に、原理、歴史、思想、理論、社会問題と社会構造、福祉政策の基本的な視点に焦点をあてて学ぶ。	
		社会福祉の原理と政策Ⅱ	社会福祉の原理と政策Ⅰで学んだことをもとに、本講義では、福祉専門職として福祉問題を解決していくための体系的な理論と技術を身につけることを目標とする。現代にある社会的問題の解決に取り組むにあたっての基礎（社会福祉学的な想像力）を身につけることも目指す。特に、福祉政策におけるニーズと資源、福祉政策の動向と課題、福祉サービスの供給と利用過程を中心に学ぶ。	

		ソーシャルワークの原理	（概要）利用者と家族の支援であるケアマネジメントを中心にして、個別支援について学ぶ。次に、地域の支援であるコミュニティワークを中心とした地域課題について学ぶ。そして、個別支援をもとに地域支援の繋がり、逆に地域支援から個別支援の繋がりを学び、個別支援と地域支援が一体的になり、ソーシャルワークになることを学ぶ。 (オムニバス方式全15回) （⑩　白澤政和/7回） 「①ソーシャルワークの枠組み、②個別支援とケアマネジメントの関係、③ケアマネジメントの方法、④ケアマネジメントの過程、⑤ケアマネジメントの事例研究、⑥ケアマネジメントとカンファレンス、⑦個別支援から地域支援へ」を担当する。 （⑨　大橋謙策/8回） 「⑧個人や家族の課題と地域の課題、⑨地域支援とコミュニティワークの関係、⑩コミュニティワークの方法、⑪コミュニティワークの過程、⑫コミュニティワークの事例研究、⑬コミュニティワークと協議体、⑭地域支援から個別支援へ、⑮ソーシャルワークとは何か」を担当する。	オムニバス方式
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	社会福祉法の第１条において、「地域における社会福祉の推進」と記述され、それを受けて、第4条は地域福祉の推進について記述されているほど、今日社会福祉における地域福祉の概念は重要とされている。それに呼応するように、新たな地域福祉の推進事業が国から示されている。そこで、本講義では、地域福祉の歴史、考え方、理論について概説し、地域福祉を支える社会資源をそれぞれ紐解くことで、有機的な連携の方法と地域共生社会の実現に向けた地域包括ケアシステムをはじめとする包括的支援体制について、地域の各層ごとに構築する必要性を学ぶ。	
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	地域福祉を推進するために、福祉行財政の実施体制、福祉計画の意義・目的、包括的支援体制の考え方、多職種連携及び多機関協働、地域生活課題の変化と現状を踏まえる。そのうえで、包括的支援体制における社会福祉士などの役割を理解する。特に、社会福祉士などの作成参画が今後期待されている福祉計画に重点を置き、地域福祉計画と地域活動計画、医療との連携について理解を深める。	
		社会保障Ⅰ	社会保障の歴史・理念・機能・構造・財源などの基盤を捉え、年金・医療保険・介護保険・労働保険・社会保険・民間保険といった各制度の概要と現状を理解する。また、各国における社会保険の課題を踏まえた上で、わが国の今日的課題について講義する。社会保障Ⅰでは、主に今日的社会保障の動向、わが国と諸外国の社会保障の歴史、理念、概念、役割、社会保障の財源、及び公的保険と民間保険の関係について学ぶ。	
		社会保障Ⅱ	社会保障Ⅰでの学びをもとに、主に年金、医療保険、介護保険、労働保険、社会保険、民間保険の概要と児童福祉、障害者福祉、社会手当制度の概要、諸外国社会保障制度の概要を学ぶことで、わが国の社会保障制度の現状と課題についても理解を深め、社会保障制度の今後のあるべき姿をも含めて考える力を涵養することを目指す。	

		貧困に対する支援	本講義では、現代社会において大きな課題となっている貧困に対する支援を学ぶ。具体的には、「公的扶助の概念」「貧困の概念と貧困状態にある人の生活実態と社会環境」「貧困の歴史」「生活保護制度」「低所得者に対する法制度」についての理解に努める。さらに、「貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割」「貧困に対する支援の実際」にまで視野を広げて学ぶ。	
		高齢者福祉	高齢者福祉の歴史や高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する。さらに高齢者の定義や特性、高齢者とその家族の生活と取り巻く社会環境について学ぶ。法制度として、介護保険法、老人福祉法、高齢者の医療の確保に関する法律、高齢者虐待防止法、高齢者住まい法、高年齢者雇用安定法などについて知識を修得し、高齢者と家族への支援や関連する専門職の役割、実際の支援の在り方、単身高齢者の増大と生活支援の必要性、終末期や死後対応についても説明する。	
		障害者福祉	障害者福祉に関する理念並びに法制度についての理解を深め、誰もが暮らしやすい社会のあり方について考察する力を養う。そして社会生活モデルの視点から、総合的に日常生活および社会生活について考える力を身につける。具体的には、障害者を取り巻く社会情勢、生活実態、ニーズ、障害の概念と特性、障害の捉え方、障害者福祉に関する法制度・施策の概要と課題、障害者と家族等の支援のあり方、関係機関や専門職の役割を理解する。さらに大きな問題となっている障害者虐待防止についても、理解を深めることもねらいとする。	
		児童・家庭福祉	本科目は児童福祉の理念・方法等について、法制度及び実際の両面から講義するものである。児童福祉や家庭支援のあり方は時代の変遷と共に変容し今日に至っているが、講義を通してこれまでの歩みと現在を学び、これからあるべき姿を考究する素地の学びを図る。前半では児童・家庭福祉の理念・歴史、法制度等を概観することにより児童・家庭福祉の基本的枠組みを理解する。後半では児童・家庭福祉施策の実施主体の役割と機能、関連機関との連携について学び、実践活動がどのように展開されるか理解を深める。	
		権利擁護を支える法制度	社会福祉従事者の仕事は、身体的・精神的な衰えがある人々を援助することである。そのため、社会福祉従事者を目指す者たちにとって重要なのは、①援助を必要とする人々のことを理解して相手の立場に立って物事を考えること、そして、②身体的・精神的な衰えがあったとしても人は対等・平等であるという人権意識を持って福祉活動の際に起こりうる人権侵害を予防することである。本授業では、権利擁護を支えるしくみを学び、続いて成年後見に関わる法制度を丁寧に確認し、法制度の背後にある人権意識を学ぶ。そしてその後に、後見人または福祉従事者の（残念ながら起こってしまった）不祥事の実例を扱い、その責任や予防方法を学ぶ。	
		刑事司法と福祉	社会における犯罪・非行を防止し、行った人の更生支援を実施して再犯・再非行を防止することは社会の重要な課題である。その課題の実現のためには、更生保護制度が有効に展開されることが鍵である。まず、更生保護制度を含め「刑事司法と福祉」についての理解を高めることを目的として、「刑事司法と福祉総論」「社会と犯罪及び原因論と対策」「刑事司法・少年司法」「施設内処遇」「社会内処遇」「犯罪行為者への支援」「犯罪被害者支援」「コミュニティと刑事司法」について学ぶ。	

		保健医療と福祉	わが国の保健医療サービスはいつでも安心して医療を受けられる国民皆保険によって支えられてきた。しかし、少子高齢社会の急速な進行とともに、医療法、医療保険制度、診療報酬制度等は様々に変更されている。わが国の保健医療サービスは歴史的な経緯を踏まえてかなり特徴的である。その特徴と、医療現場の現状や医療・保健分野の仕組みとチーム医療を理解し、さらに保健医療サービスを患者・家族の届けてきた医療ソーシャルワーカーの役割・機能について理解する。	
		医学概論	医学概論では、「人の生涯にわたる成長と発達と老化の変化の特徴」「身体構造と心身の機能と題した人体の解剖学・生理学」「福祉業務において、関係する疾病や障害について」「リハビリテーション、国際生活機能分類、健康の捉え方」について講義をする。	
		社会福祉調査の基礎	社会福祉調査は、臨床データを批判的に吟味し知見の蓄積・共有を目指す姿勢は、保健医療福祉専門職にとって必要不可欠な資質となる。本講義は社会福祉調査の意義と目的及び方法に焦点を当てて教授するとともに、統計法の概要、社会福祉調査における倫理や個人情報保護におよぶ広範囲な分野について理解を深めることを目的としている。事例研究と統計調査について実際例を提示して解説することにより、質的研究と量的研究の相補性に対する理解を促し、専門職が有機的に連携していく上で必要な「知見の見える化と共有化」の技術力を高める。	
		国際医療福祉論	世界の医療福祉に関わる制度と実践は大きく日本の現状とは異なる。ジェームス・ミッジリィの国際社会福祉論やエスピン・アンデルセンの福祉レジーム論による各国の医療福祉制度とその背景を比較し、その相違点を理解する。しかし、制度が異なるというだけで終わっては学ぶ意味がなく、いまの日本に必要な仕組みへの示唆を他国の現状から得る。特に、日本が学んできたイギリスやデンマークのコミュニティケアを中心に、日本の地域包括ケアシステムの新たな仕組みづくりを展望する。	
		公衆衛生学	公衆衛生の原義は、「すべての人の生命と生活を守る」ことである。公衆衛生学は、保健・医療・福祉を包括する総合科目であり、この分野の専門職が連携共同するために必要不可欠な共通言語である。本講義は疾病・障害の予防、健康の保持・増進を社会として達成するための基本的な考え方と歴史的経緯、制度を学ぶことを目的としている。公衆衛生を支える基礎科学である疫学、統計学の知識および技術の基礎を理解、修得し、あわせて公衆衛生活動に関わる計画や評価に必須な手法（地域アセスメント、保健計画策定）の基礎についても学ぶ。	
		カウンセリング	カウンセリングが実際にはどの様なプロセスで実践されているか、前半は具体的な場面を設定しながら知識の整理をします。後半は医療、福祉等の臨床場面での事例素材により、カウンセリングの実際を学びます。講義と共に適時、具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）、事例検討ではグループデスカッションを取り入れ、対人援助場面での臨床心理学的な専門性とはなにかの理解を深める。	
		医療ソーシャルワーク論	疾病構造の変化、医学・医療技術の急激な進歩によりわが国の医療を取り巻く環境も激変してきている。このような状況の下、保健医療分野の専門職として、病院、在宅医療などにおける医療ソーシャルワーカーの役割への期待が高まっている。この講義では、医療福祉の歴史を踏まえ、医療ソーシャルワーカーの業務・役割・機能について理解する。	

	ケアマネジメント論	わが国では介護保険制度や障がい者制度を契機に、「ケアマネジメント」という用語は定着してきた。人々が地域による見守りや支援を受けながら、望ましい生活の維持のためのさまざまな複合的な課題に対して、生活の目標とそのための課題解決に至る道筋と方向を明らかにし、地域にある資源を活用し、総合的かつ効率的に課題解決を図っていくプロセスと、それを支えるシステムといえる。地域福祉実践を進めるうえで、個別のニーズに対する直接的で包括的なアプローチだけでなく、チームアプローチに必要な保健・医療・福祉の連携のあり方やサービス提供のシステム、福祉サービス運営管理のあり方など、地域包括ケアが目指す福祉コミュニティの構築が求められる。福祉サービス利用者が地域社会の中で自立した生活を営むことができるような支援について、資源開発なども含めて学ぶ。	
	リーダー論	対人支援の専門職として、利用者の望む生活を実現するためには、専門職個人の力だけではなく、チームとして力を発揮することが求められる。チームを牽引するリーダーの役割は大きく、人材育成と能力を結集して、チームが掲げる目標を成し遂げることにある。利用者の意向を尊重しつつ、生活ニーズを充足するための支援目標に焦点をあて、チーム全体をコーディネートする。リーダーは人材育成、組織をマネジメントする力が求められる。そのためには、チームメンバーや利用者の声に傾聴し、ニーズを捉える判断力と的確な伝達力、人材育成のためのスーパービジョン、リーダー自身の感情コントロール、さらには自己研鑽を積む必要がある。本科目では、リーダーとしての資質・役割を学修するとともに、チームとしての力を発揮するための基礎を修得する。	
	リハビリテーション論	（概要）リハビリテーションサービスは、心身に障害を持たれた方に複数の専門職により提供される。特に複雑な課題をもつケースへの支援の場合、福祉専門職はリハビリテーションチームの中でも欠かせない役割を果たす。本講義の中では、まずリハビリテーションの理念を歴史的背景から学ぶ。次に健康や障害の概念、また障害の種類や程度に応じた各種のリハビリテーションおよび地域におけるリハビリテーションの役割について理解し、障害を持たれた方に対するチームアプローチの中で福祉専門職に求められる機能と役割について理解する。最後に超高齢社会のわが国における地域包括ケアシステムの概要について学び、利用者へのより良いサービス提供について考えていく。 (オムニバス方式全15回) （23　太田　誠/5回） 「①②イントロダクション、⑬～⑮これからの総括」を担当する。 （25　向井康詞5回） 「③～⑦理学療法士の立場からのリハビリテーション」を担当する。 （27　大堀具視/5回） 「⑧～⑫作業療法士の立場からのリハビリテーション」を担当する。	オムニバス方式

		ＩＣＦの理解	ICF（国際生活機能分類）についての理解を深め、人を支援する専門職として必須である「人が生きるということ」を総合的に理解し、アセスメントやケースの考察、多職種とのコミュニケーションにおける生活機能の定義や表現など支援への活用を学ぶ。具体的には、ICF成立に至る過程の中で「障害」や「人が生きること」がどのようにとらえられてきたかの考察を入口に、「分類」としてのICFに触れつつ、主にはそこに示される「社会生活モデル」の考え方を中心に理解を深める。各自の目指す専門性に基づいた支援アプローチの中で、ICFそして「社会生活モデル」を基礎とする思考ができ、活用できる能力を身につけることを目的とする。	
		福祉用具と福祉機器	福祉用具（機器・介護ロボット含む）は、福祉用具法において、「心身の機能が低下し、日常生活を営むのに支障のある老人または心身障害者の日常生活の便宜を図るための用具及びこれらの者の機能訓練のための用具並びに補装具」を総称するものと定義されているが、介護保険法での福祉用具の給付と貸与制度が加わり、福祉用具の範囲も拡張し、また、ロボット産業政策として介護ロボットの開発も進められている。また、日本における介護ニーズの急増や人手不足、担い手の負担軽減や介護の質の確保・向上のための福祉用具の利活用が進められている。本講義では、福祉用具の定義と種類、知識や技術、利用者のADL等の改善や介護負担軽減などの福祉用具の役割や利活用について学ぶ。	
	経営の基礎	地域医療連携とチーム医療	超高齢社会となった我が国の地域医療政策における重要な基本概念である「地域包括ケアシステム」を理解し、患者を中心としたその人らしい生活の支援を可能にするチーム医療を担う専門職の役割と機能について理解する。それらの理解をもとに、地域住民の健康福祉に貢献するための多職種連携のしくみづくりやチームによるサービス供給のマネジメントについて学ぶ。	
		地域活性化と地域医療	地域の抱える医療の問題点を考察し、そのための解決策である、活性化策を共同で考察することを目的とする。医療福祉マネジメント学科にて、これまで修得した基礎科目（福祉介護関連・および社会科学の経済学、経営学、マーケティング、会計学関連科目）の知識を有機的に活用させ、地域医療の重層的課題の抽出と解決策を策定させる。これにより習得済み科目の有用性と応用性を理解させ、今後の就学の方向性を学生が見出せるよう指導する。授業では基礎的理論を理解させるため、講義にて核心的視点や解析の方法論を説明し、実践的事例を題材にケーススタディを実施し、この後アクティブ･ラーニングが可能なように自らの解決策を構築できるよう問題解決型学習（ＰＢＬ）を実施し課題の抽出と解決策を討論できるよう指導する。	
		福祉サービスの組織と経営	ソーシャルワークにおいて必要となる、福祉サービスを提供する組織や団体の概要について理解し、経営の視点と方法を理解することをねらいとする。主に、1)福祉サービスの成り立ちから、福祉領域における組織や経営の概念と法制度や、組織と経営の基礎理論について学ぶ。2)福祉サービスの管理運営の具体的な方法、財政運営の現状、組織形態の関係性における現状など、現場での実践事例等も含めて、人事管理、労務管理、会計・財務管理、情報管理などについて理解する。	

		介護施設経営	福祉と経営はこれまで、あまり結び付けて考えられることはなかった。それは「福祉は人のため、経営はお金のため」という印象が強かったからかもしれない。しかし近年は、福祉現場でも経営の知識・技術が求められ、高齢者や障がい者、子育て家庭などを対象とした新しいスタイルの福祉ビジネスも次々と登場している。この背景には、福祉だけあるいは経営だけではもはや解決できない課題があることを人々が認識するようになったことが挙げられる。このようなことから、福祉現場における経営のノウハウを学び、複雑・多様な問題の解決に取り組むことができる技能を身につける。	
専門教育科目	ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	ソーシャルワークとは、社会福祉の目標を実現する実践活動の方法である。社会福祉の専門職である社会福祉士、精神保健福祉士は、対人援助職としてその前提に利用者の自己実現に向けた深い理解と洞察、専門職としての倫理が必要とされる。本講義では、社会福祉士・精神保健福祉士の基本について体系的に学び、ソーシャルワークの形成過程を踏まえソーシャルワーク理念と倫理的ジレンマについて理解することを目的とする。	
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	ソーシャルワークとは、社会福祉の目標を実現する実践活動の方法である。社会福祉の専門職である社会福祉士は、対人援助職としてその前提に利用者の自己実現に向けた深い理解と洞察、専門職としての倫理が必要とされる。本講義では、ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲を学び、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークと総合的かつ包括的な支援と多職種連携について理解することを目的とする。	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	ソーシャルワークとは何かの基本的な理解を踏まえて、ソーシャルワーカーとしての支援に必要とされる価値や倫理、支援の展開方法の基礎を学ぶ。具体的には、ソーシャルワークの定義や特徴、価値や倫理、ソーシャルワーク理論の発展を概観した上で、ミクロ・メゾを中心として具体的な支援方法を提示し、ジェネラリストアプローチとソーシャルワークの役割について考える。	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	ソーシャルワークにおける人と環境の交互作用に関する理論や、ソーシャルワークの対象、さまざまな実践モデル、ソーシャルワークの過程とそれに係る知識や技術、ソーシャルワークの実際などについて学ぶ。ソーシャルワークとはどのようなものか、その展開についても学ぶ。また、ソーシャルワークの新しい概念や今日的課題も取り扱う。	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	多様化・複雑化する課題に対応するため、代表的なソーシャルワーク理論モデル（アプローチ・モデル）について学ぶとともに、事例を通してその理論モデルを用いた実践の展開を学び、ソーシャルワークの実践に必要な基礎知識と実践力を身につける。特に、社会生活モデルやナラティブ・アプローチを意識し、事例を通じて学ぶ。	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	ソーシャルワークの価値、知識、技術の基礎をおさえ、新しいアプローチ・モデルを用いた実践の展開を通して理解し、ソーシャルワークの実践力を身につける。そして、3年次に実施するソーシャルワーク実習Ⅰに活かしていく。特に、総合的かつ包括的な支援としてのジェネラリスト･ソーシャルワークを学ぶ。	

		ソーシャルワークの理論と方法Ⅴ	精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を学ぶとともに、当事者の家族やその関係性にも着目し、家族も対象たることを視野に入れた支援のありようについて学修する。さらには、多職種連携・多機関連携の方法について学び、精神保健福祉士の役割についても学修する。一連の学習過程では、ソーシャルワークが、個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性があることを踏まえていく。	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅵ	精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を学修するとともに、精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法や精神保健福祉士の役割について学ぶ。また、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法や個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解することをめざす。	
		精神医学と精神医療Ⅰ	代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援といった観点から理解する。さらに、精神科病院等における専門治療の内容及び特性について理解をめざすとともに、精神保健福祉士が、精神科チーム医療の一員として関わる際に担うべき役割について理解する。特に「①精神疾患総論(代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む)」「②精神疾患の治療」「③精神科医療機関の治療構造及び専門病棟」を中心に学ぶ。	
		精神医学と精神医療Ⅱ	精神医学と精神医療Ⅰでの学びをもとに、今日、精神保健医療福祉における連携の重要性と精神保健福祉士がその際に担うべき役割について理解する。特に「①精神科治療における人権擁護」「②精神科病院におけるチーム医療と精神保健福祉士の役割」「③精神医療と福祉及び関連機関との間における連携の重要性」を中心に学ぶ。	
		現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	現代の日本人を取り巻く環境は、これまでに例をみないほどの変化を見せており、心身の健康をいかに維持し、増進していくかという大きな課題を背負っている。本科目では、精神の健康についての基本的な考え方について理解するとともに、現代社会における精神保健の諸課題と精神保健の実際及び精神保健福祉士の役割について理解することをめざす。	
		現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	近年では、精神保健に関わる諸課題やその支援のあり様は多様化している。本講義では、現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解するとともに、精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について理解することをめざす。さらに、世界的な精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について考察する。	
		精神保健福祉の原理Ⅰ	「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷や障害者福祉の基本的枠組み、精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義やその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について理解し、幅広い視野から精神保健福祉の原理について学修する。	

	精神保健福祉の原理Ⅱ	歴史的に精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティを理解するとともに、精神保健福祉士の基本的枠組みと倫理綱領に基づく職責について理解することをめざす。さらに、近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性について理解し、幅広い視野から精神保健福祉の原理について学修する。	
	精神保健福祉制度論	（概要）精神障害者に関する法制度について学び、精神保健福祉法、医療観察法等の医療に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解することをめざす。さらに、生活支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解し、幅広い視野で援助場面で活用できるよう学修を進める。 （オムニバス方式全15回） （11　松浦智和/7回） 「①～⑦精神障害者に関する制度施策、精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割、医療観察法の概要、精神障害者医療に関する課題」を担当する。 （12　阿部好恵/8回） 「⑧～⑮精神障害者の生活支援に関する制度、精神障害者の経済的支援に関する制度」を担当する。	オムニバス方式
	精神障害リハビリテーション論	精神障害リハビリテーションの概念とプロセスや、精神保健福祉士の役割について学び、活用できることをめざす。さらに、精神障害リハビリテーションプログラムの知識を得て、援助場面で活用できるよう学修を進める。	
	医療的ケア	障害や慢性疾患を抱え生活する人の介護ニーズ・医療ニーズが複雑化・多様化・高度化してきている中で、そのニーズに対応していくためには、医療職だけではなく、他専門職にも医療的知識が求められている。社会福祉士及び介護福祉士法の改正により、介護職員にも一定の条件下で医療的ケア（喀痰吸引や経管栄養法等）が実施できるようになったことから、安全・安楽を意識した医療的ケア行為の実際を学修する。また、介護職が行える医療的行為の範囲は限定されており、その範囲を遵守しながら医療職との連携（報告・連絡・相談）の図り方、医療行為に必要な観察のポイントを修得することを目指す。	
	終末期ケアとソーシャルワーク	社会福祉が、人が生まれてから死んでいくまでの人生における様々な生活課題の解決を目指す取り組みであるとすれば、人生の最終段階としての終末期医療が、ソーシャルワークニーズの非常に高い実践場であることは自明である。本講では、この人生の最終段階である終末期に焦点をあて、終末期医療におけるソーシャルワークについて講じる。緩和医療におけるソーシャルワークを柱に、人生の最終段階：終末期についての考察を深めていくことから、終末期医療の歴史と日本における展開、人生の最終段階の終末期にある対象者への理解、心理社会的ニーズについての実際、倫理的課題、医療チームと共に行う意思決定支援、死別ということ、遺族支援・グリーフワーク等、終末期医療におけるソーシャルワークについての実際を学び、その実践を志向することを意図する。	

		認知症ケア論	（概要）社会の中には多くの認知症を抱える人が存在している。認知症という病気の症状がその人であるかのような誤解の中で誤った対応が本人の混乱を招くことがある。人生の歩みの中で築かれたその人の暮らしを守り、認知症高齢者の生活を支援するために、認知症の病態を理解した上でその人らしさを追求できる対応について、事例を通して「疾病性」と「事例性（状況性）」を学修する。また、認知症の方が抱える生活の困難さを家族・地域とともに支える支援、研究として追求していける支援を目指す。 （オムニバス方式/全15回） （18　照井レナ/8回） 前半1～6回、後半12～13回を担当、認知症イノベーション、認知症のファクトフルネス、認知症の分類、認知症の病態を理解した上で、認知症の方や認知症の方を支える家族、支援者の方のゲストスピーチを通して、認知症の方の世界観や不安、生活を支援する上での様々な困難さを知る。状況に応じた支援の在り方を追求しながら新たな支援方法を探る。その内容をプレゼンテーションしていく。 （22　佐藤　恵/7回） 前半7～11回、後半14～15回を担当、毎回事例を通して、客観的情報から支援方法を学修する。ICFの生活モデル、環境（人や生活の場）との関係、倫理的ジレンマ、看取り、地域との関係の在り方等、ワールドカフェ形式からその人らしさを追求する支援方法を探る。その内容をプレゼンテーションしていく。	オムニバス方式
	管理運営の実践	経営管理論	医療施設経営の認識の基盤となる企業経営そのものに対する関心を高め、所属する組織とかかわる上で必要不可欠な知識を身につけ、経営管理の概念を理解する。基本的なマネジメント理論、組織論、財務管理、目標管理、サービス・マネジメント等を概説し、それらを統合した企業のマネジメントについて学ぶ。科目の後半ではケースメソッドを取り入れ、企業経営活動を分析し、経営管理上の課題を探求し、理論と対比させながら経営管理の理解を促すディスカッションを中心とした授業を行う。	
		人的資源管理論	医療機関や社会福祉施設において、対象者へ直接サービスを提供する専門人材は重要な資源であり、それらのマネジメントはサービス品質および顧客満足にかかわる経営上の重要な課題である。この授業では、組織における人材の育成およびマネジメントに関する役割や機能を理解するため、人的資源管理における諸理論とその応用、効果について学ぶ。	
		医療管理総論	医療の成り立ちとそれに関連する法規、制度、政策などを理解し、社会の中での医療の位置づけや役割、機能を踏まえ、医療業におけるマネジメントの意義や課題について考える。一般的な経営管理論から医療業のマネジメントに関連する経営理論を用いて、医療組織の提供するサービス財の価値と、その連鎖におけるそれぞれの局面でのマネジメントについての検討を行い、医療経営の視点で期待されるマネジメントのあり方についてイメージがもてるよう促す。	

	医療安全・臨床倫理	医療安全の体系と役割、機能について理解する。医療は人々の生命や健康を守ることを目的としており、安全であることは必須の前提である。しかしながら人は間違いを犯すものであり、人が行う行為によって成り立つ医療サービス場面においては、いかにそれを最小限に食い止めるかが重要である。この授業では、医療安全の原理と手法を学び、その中で守るべき対象者の人権について臨床倫理の視点から解説し、想定される課題に向き合うことのできる見識と態度を養う。	
	持続可能社会と地域医療福祉経営	（概要）持続可能な社会は、営利企業部門、公共サービス部門及びNPOなどの非営利組織で様々な活動を担う市民セクター部門で成り立つこと、これらの部門が地域社会で連携し問題解決に貢献することを理解する。前半は、持続可能な社会は、高齢化が進む地域社会の医療や介護などの公益志向を重視し、様々な部門で活動する人々と連帯して生活する共生志向を有することの大切さを説明する。後半は、ケーススタディを多用し、問題解決型学習（PBL）を実施し、ケースでの課題の抽出と解決策を議論させることで、主体性を育成させる。 （オムニバス方式全15回） （13　加藤敏文/7回） 「①持続可能な社会とは何か、②持続可能な地域社会像、③連携の関係づくりと地域社会、④持続可能な地域社会の形成1、⑤持続可能な地域社会の形成2、⑭先進事例研究：公益志向の地域社会、⑮先進事例研究：共生志向の地域社会」を担当する。 （17　伊藤　一/8回） 「⑥持続可能な地域社会の形成3、⑦地域医療経営の広報戦略、⑧医療の地域連携を基礎とした広報戦略事例研究、⑨CSRを活用した病院経営、⑩地域医療機関のケアミックス型施設の経営戦略、⑪医療BSC経営による経営戦略の実現、⑫地域医療経営におけるBSC経営の事例、⑬ABC(アクティビティーベースドコスティング)を活用した価格設定の事例」を担当する。	オムニバス方式
	地域連携実践	本科目は企業実習（インターンシップ）科目である。医療福祉サービス活動を実習を通じ実際の場面で体得させ、具体的にその仕組みや内容、課題などを理解させることを目的に配置する。具体的には、医療福祉サービス活動を事務部門、販売・購買部門などで幅広く体験させ、その仕組み・人・物・金・情報の流れを全体的に把握する。また、医療福祉サービス活動とそれを取り巻く環境諸条件などの関連・影響を総合的・システム的に把握する。加えて、経営理念・戦略、経営者の指導力、情報処理システムなどの重要性を体験を通し認識する。	共同
	ソーシャル・ビジネス	ソーシャル・ビジネス（以下SB)とは、社会的課題を解決するために取り組まれている事業と定義され、めまぐるしい時代の変化と社会からのニーズと共に常に変化し続けている。医療や福祉業界をはじめ環境問題や貧困による格差問題、子育て支援や障がい者雇用など活動分野は多岐にわたる。この授業では幅広いSBの活動を網羅し、SBの基礎的な知識を学び、自ら社会課題の発見から問題解決までを一貫して提案できるよになることを目的とする。	

ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習Ⅰ	この科目は、ソーシャルワーク展開に必要な価値・知識・技術等の総合的な実践力を身に付ける重要な科目である。この演習Ⅰは、演習の導入の段階として位置づけられ、ソーシャルワーカーに必要な基礎的な技能を身につけるために展開する。この授業では、自己理解・他者理解を中核に置きつつ、基本的な面接技法や記録法をロールプレイ・グループワーク等を通して身につける。	共同
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	ソーシャルワーク演習Ⅱの授業内容は、以下の点がポイントとなる。 １）ソーシャルワークの展開過程について、事例等を通して実践的に理解する。その際に、社会生活モデルを意識していく。２）演習Ⅰで修得した面接技術についてさらに発展させるために、総合的な面接技術の修得を目指し展開する。３）ソーシャルワークの専門的援助技術を幅広く体系的に理解し、ソーシャルワーク実習に臨む為に必要なコンピテンスを身につける為の実践的な内容で構成されている。４）地域アセスメント能力を身につけるために、実際に対象地域に出向くフィールドワークを行い、体験的・実践的な学修を行う。	共同
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	ソーシャルワーク演習Ⅲでは、現代の日本における重要な福祉課題である、虐待（児童・障がい・高齢）・ひきこもり・ヤングケアラー・性的マイノリティ・貧困・認知症・終末ケア・災害等の困難事例検討を通して、各領域の固有な問題の把握及び総合的・包括的なソーシャルワーク援助技術、さらに、個人の尊厳を基盤に置いた倫理的判断基準を学ぶ。また、演習Ⅱからの継続を受けて、地域共生社会の実現に向け個人の人権を尊重した地域支援について具体的なアプローチ方法、地域づくりについて理解を深める。その際、社会生活モデルを意識する。さらに、ソーシャルワーク実習Ⅰのためのソーシャルワーク実習指導Ⅱの科目とも連携を図りながらすすめていく。	共同
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	ソーシャルワーク実習Ⅰにおける学生の個別的な体験を視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導等により、ソーシャルワーク係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として修得できる学習機会を提供する。多様な実習先で実践されたソーシャルワーク実習Ⅰの事例報告を行い、技術や知識、価値観等を共有し、ジェネラリスト･ソーシャルワーカーに求められる多様な知識と技能を実践的に修得する。	共同
	ソーシャルワーク演習Ⅴ（精神）	本科目はソーシャルワーク実習Ⅱを行う前に学修を進める。ソーシャルワーク演習Ⅴ～Ⅵにおいて一体的に、①領域、②課題、③法制度・サービス、④援助技術について、精神保健福祉援助の事例（集団に対する事例を含む）を活用し、精神保健福祉士としての実際の思考と援助の過程における行為を想定し、精神保健福祉の課題を捉え、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得することを意図し演習を展開する。演習Ⅴにおいては、①領域（福祉サービスを必要とする人に対応する各相談機関、対応機関）と②課題（社会的排除、孤立等のマクロ的視点、依存症等のミクロ的視点）について学修する。取り上げるすべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察する。	共同

		ソーシャルワーク演習Ⅵ（精神）	本科目はソーシャルワーク実習Ⅱを行う前に学修を進める。ソーシャルワーク演習Ⅴ～Ⅵにおいて一体的に、①領域、②課題、③法制度・サービス、④援助技術について、精神保健福祉援助の事例（集団に対する事例を含む）を活用し、精神保健福祉士としての実際の思考と援助の過程における行為を想定し、精神保健福祉の課題を捉え、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得することを意図し演習を展開する。演習Ⅵにおいては、③法制度・サービス（精神に関する法制度）と④援助技術（ソーシャルワークの展開過程を踏まえた各種療法等）について学修する。また、演習Ⅶにつなげていくために事例検討の方法についても学修する。取り上げるすべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察する。	共同
		ソーシャルワーク演習Ⅶ（精神）	本科目はソーシャルワーク演習Ⅴ･Ⅵの積み上げの位置づけとしている。本科目では、様々な領域の事例検討を中核に、ソーシャルワーク実習Ⅱへ向け、精神保健福祉士としての実際の思考と援助の過程における行為を想定し、精神保健福祉の課題を捉え、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に修得することを意図し演習を展開する。取り上げるすべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察する。殊に、本科目では、医療機関、障害福祉サービス事業所、行政、社会福祉協議会における精神保健ソーシャルワーク実践について検討する。	共同
ソーシャルワーク実習		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	ソーシャルワークや社会福祉士についての理解を深めるとともに、ソーシャルワーク実習Ⅰの意義や内容について確認しつつ実習準備を行っていく。具体的には、学生自身の動機・目的の確認、実習内容の理解、実習先の選択、実習に必須な知識の獲得・再整理を進める。体験学習も含め、その過程で学生自身が自身のソーシャルワークへの適性を考察し、ソーシャルワーカーに必要な態度や価値観への理解を深める。	共同
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	実習前においては、実習生として必要なソーシャルワークの価値や必要知識・技術を確認する。さらに、実習計画を学生、教員、実習先が協議しながら作成し、学生の実習目的・目標・課題を明確化する。実習中は、実践を媒介に教員と実習指導者が協力しながら、ソーシャルワークについて学生の理解を促進させ、実習目標の達成を目指す（巡回指導、帰校日指導、随時個別指導など）。実習後は、学生の実習体験を整理することにより、相談援助の知識と技術についての理解の深化につなげる。更にその過程において、学生が実習体験を考察し、ソーシャルワーカーとしての自身の課題に気づいていく。	共同
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（精神）	ソーシャルワーク実習Ⅱへ向け、実習に関わる個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し 実践的な技術等を体得することをめざす。さらに、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することをめざす。殊に、精神保健医療福祉の現状やソーシャルワーク支援の実際、実習施設の概要について、支援者や当事者の講話、施設見学なども含めながらより実践的に理解することをめざす。	共同

		ソーシャルワーク実習指導Ⅳ（精神）	本科目はソーシャルワーク実習に関わる事前学修と事後学修から構成される。事前学修では、ソーシャルワーク実習指導Ⅲでの学びを活かし、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することをめざす。事後学修では、実習報告書のケースレポートの作成、実習報告会を通じて、具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化・理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することをめざす。	共同
		ソーシャルワーク実習Ⅰ	ソーシャルワーク実習は、240時間以上にわたり指定された実習形態により、実習契約を締結した施設・機関の実践領域に配属されソーシャルワーカーである社会福祉士のスーパービジョンにより必要な価値・知識・技能等の実践力を身に付けることを目指し進行する。スーパービジョンの特徴は実習契約に則り実習プログラムを媒介としつつ、実習指導者及び実習担当教員（実習巡回等）による2重のスーパービジョン構造により展開される。実習においては、実際に生活されている利用者及び家族・関連職種・地域住民等と直接触れ合う機会が多い。事前に職業人として必要な社会スキルを身に付け適切に実践することが必要である。特に、ケース研究においては、対象者のプライバシー情報に直接触れることになる。常に、尊厳と人権意識の保持及び高いモチベーションを維持し実習に臨むことが求められる。実習に関わる全ての人々に対して謙虚さと感謝の気持ちを持つことが重要である。	共同
		ソーシャルワーク実習Ⅱ（精神）	210時間以上の配属実習を通じて、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に関わる専門的知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得することをめざす。また、精神障害者が置かれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。さらには、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得することをめざしていく。	共同
	総合科目	基礎演習	毎週1回、大学教育の基礎的な学び方を知る。文献や資料の調べ方、レポートの作成方法、プレゼンテーション等の基礎的な学修手法を、少人数の演習形式で学んでいく。特に、2年次から増していく専門的な学修に備えるために、学びの手法を獲得していく。また、フィールドワークセンターと連携をして、社会福祉施設などでの体験学習を行い、2年次以降の学修に向けた意識向上を図っていく。	共同
		専門演習Ⅰ	専門演習Ⅰでは、学生各々の目指す進路・資格に向けてこれまでの学びを統合し、自身の未来のテーマを見出す主体的な取り組みを支援する。週1回、少人数によるゼミナール授業を行う。4年次における専門演習Ⅱ(卒業レポート作成)に向けて、テーマをより明確化し、研究の社会的意義を明らかにするために文献調査(研究)を行ったり、より正確で説得力のあるデータ収集(調査研究)をフィールド調査や統計処理等を使って行う。	共同
		専門演習Ⅱ	専門演習Ⅱでは、専門演習Ⅰから継続し、各々の目指す進路・資格に向けて大学での学びを統合し、学生個々が取り組む研究、調査のプロセスを支援する。原則毎週1回、少人数によるゼミナール授業を行う。専門演習Ⅰで行った研究内容について精査し、自身の関心をより明確化する。研究の社会的意義を明らかにし、より正確で説得力のあるデータ収集のために文献調査、フィールド調査や統計処理等を行ない、卒業レポートとしてまとめる。	共同

		卒業研究	この科目では、各自の研究テーマに基づき、卒業論文を作成する。4年間の学修成果を形式知に昇華させることを目的とする。そのために、専門演習Ｉで培ってきた基礎的研究成果を元に、研究計画作成、データ取得、議論、などを行い、研究内容を論文としてまとめ上げる。前期末に研究内容の途中経過、学年末に作成した論文の発表を行う。	共同